

# The Kansai University Bulletin

Osaka, March 15th, 1928 - No. 57

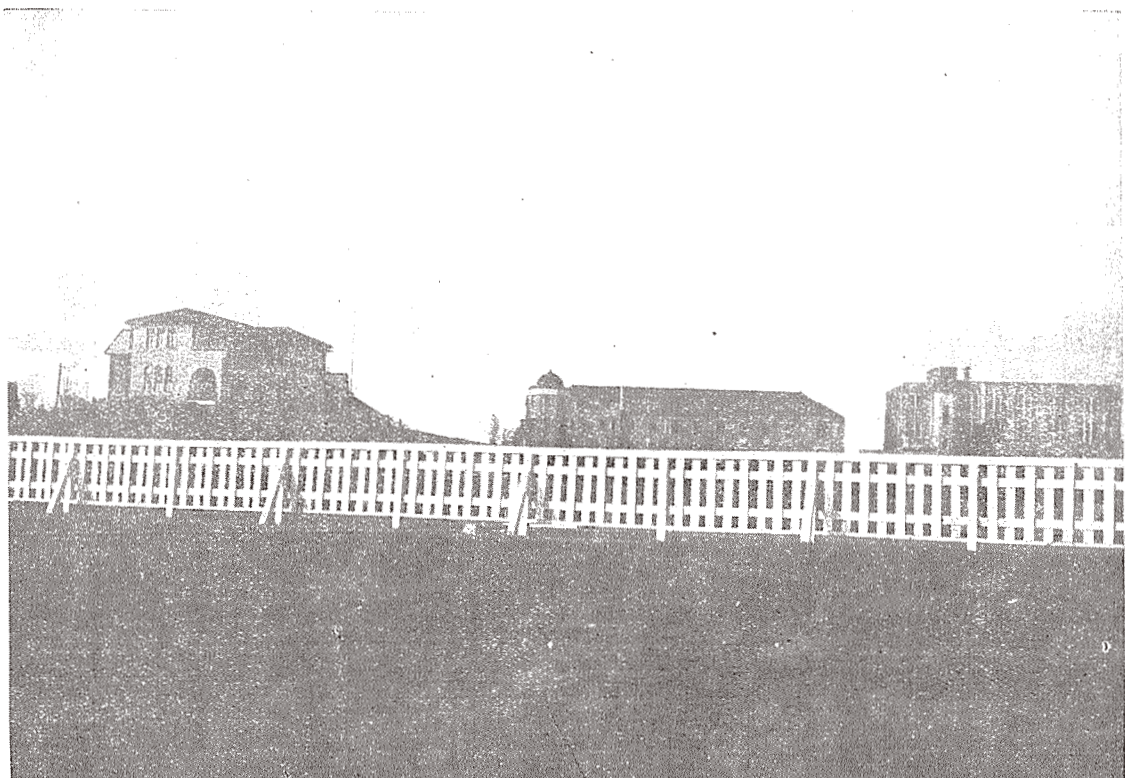
# 報學山里千

行發日五十月三

號七十五第

年三和昭

Grand Views at the Senriyama Compound of the University



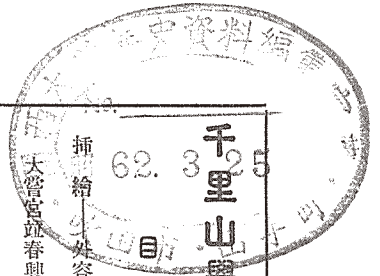
園學山里千るすこんら成容外

阪 大

九四〇一(堀佐土)話電  
番〇七五七・〇七三七

局報學學大西關

座口金貯替振  
番五七八二一阪大



挿繪—姓容成らんとする千里山學園(表紙)

大嘗宮・迎春興慶宸殿平面圖—事務理事就任披

露會—本學留學生に決定したる中村良之助氏と

林太郎氏—校友野田文一郎氏—岡山縣人會郷土

訪問文化講演會記念攝影—關西英語聯盟英語雄

辯大會

大禮要義 關西大學講師 新町徳之

階級的觀念形態における社會政策

關西大學教授 岩崎卯一

學内報—學部卒業試驗施行—大學豫科修了試驗

施行—專門部卒業試驗施行—第三學期授業修了

—學部並大學豫科學年試驗施行—專門部學年試

驗施行—卒業式豫報—役員會並調査委員會開催

—建築委員會—留學生派遣—京大教授講師招待

—本學關係新代議士—役員會並建築委員會開催

—千里山親睦會開催—附屬關西甲種商業學校彙

報—附屬第二商業學校彙報—教授中村鄒次郎氏

の轉居

校友の面影—野田文一郎氏

校友彙報

學生彙報

學生寄稿

雜錄

大禮要義

關西大學講師 新町徳之

一 大禮前儀

大禮の意義 謹みて案するに、大禮は遠く神代に淵源し神子神孫にして現津御神に御在す天皇陛下が皇祖皇宗の皇統たる大日本帝國の皇位を繼承したまひて天壤無窮萬世一系の惟神の寶祚を踐みあそばすに伴ひて生ずる最高最大の盛儀であり唯一至重の典禮であります。御民吾等は能く其の意義を理解し奉り滿腔の至誠を披瀝して慶賀の意を表し、聖壽の無疆を祈り奉るべきであります。まづ皇位繼承につきて謹述せんに、こは皇室典範第一章第一條に

大日本皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス

とあり。この條文は憲法第一章第二條

皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

となつたのであります。皇位とは天津日嗣の高御座のことで、これを御承け継ぎ遊ばすことをば、皇位繼承と申し奉る。少し六ヶ敷く申せば、統治權の主體であらせられた大正天皇の御後を御繼ぎ遊ばして、今上陛下が統治權の主體となり遊ばすことで、即ち統治權の繼承であります。皇位繼承と申し奉る所以は統治權を繼承して其の主體となり遊ばす陛下が皇位に御即き遊ばすが故に之を具體的に形容し奉りしものであります。今上天皇は長くも昭和元年(二五八六)十二月二十五日、皇位即ち天津日嗣の高御座を御承け遊ばして、昭和聖代の天皇陛下にならせたまひたるにて、

これを踐祚と申し奉る。

踐祚とは位を踐むといふ意で、「アマツヒツギシロシメス」とも訓みます。皇室典範第十條天皇崩ズルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク

とあるはこのことであります。これは皇位は一日も曠しうすべからず、國家一日も君なかるべからずといふ御次第で、畏けれど、大正天皇が大正十五年(二五八六)十二月二十五日御崩御遊ばすやがて、今上陛下が御踐祚遊ばされたのであります。

陛下は此時、掌典長をして賢所に祭典を行はしめ、且踐祚の御旨を皇靈殿・神殿に奉告せしめ給ひ同時に劍璽・御の御儀を行はせ給ふ。

次いで踐祚後朝見の御儀があつて、群臣を召して長くも勅語を下しあそばされた。この勅語は昭和と日本八千萬人の國民が日夜服膺すべきものであります。昔はこの踐祚と即位とは同じものでありますので、天皇即位之を踐祚といふなごあります。所が人皇第五十代桓武天皇(一四四一—一四六五)の御代に天皇が、光仁天皇(一四二〇—一四四〇)の御禪を御受け遊ばして皇位に登らせ給ふたのが天應元年(一四四一)四月三日の辛卯の日で、それから十二日癸卯の日を以て大極殿に出御になつて、天下萬民に即位の御事を御宣語遊ばした。その間、僅に二十日間であつて、未だ踐

祚・即位の名稱を以て明に之を別たれなかつたが、併しながら事實上、天皇が新例を御開示あそばされた最初であるを申し奉るべきであります。桓武天皇の後に、人皇第五十三代淳和天皇(一四八四—一四九三)も桓武天皇の御新例に依らせ給ひしも、依然として踐祚

と即位との區別はない。その區別あるに至りしは、やや後の事で、醍醐天皇(一五五八—一五九〇)・朱雀天皇(一五九一—一六〇六)・村上

上天皇(一六〇七—一六二七)の三天皇は、受禪の後に前帝を尊びて太上天皇となし、朱雀天皇は、先帝の崩後、即位の前に、皇太子及び皇后を冊立あそばされた。踐祚・即位の分別しこは、蓋し此の時代からであらうと存じます。つまり踐祚とは事實上、天津日嗣の高御座に御登り遊ばすことで、即位とは踐祚の後、森嚴崇高なる御典儀を御奉げになり、引つゞいて大嘗祭を行はせらるゝ次第となつたのであります。

大禮舉行の地 御大禮は皇室典範第十一條即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ登極令第四條即位ノ禮及大嘗祭ハ秋冬ノ間ニ於テ之ヲ行フ。大嘗祭ハ即位ノ禮ヲ訖リタル後續テ之ヲ行フ。

とあつて、京都に於て御奉げになるのであります。これは明治天皇特別の御歡慮に出で桓武天皇以來千有餘年の深い由縁を重んぜられ給ひしによるに承ります。さて大禮の御事務を掌理せしめる爲に宮中に大禮使を置かれ、大禮使官制が頒布せられました。閑院宮殿下が大禮使總裁で、近衛文麿公が大禮使長官で、其下に大禮使次官、大禮使御用掛なごの多くの司人が屬して居ます。

さてこの大禮使が評議會を開きまして、御大禮の期日を内定して、陛下の勅許を得て之を決定し、茲に薄紫の霞晴れて春光麗かなる一月十七日(火)といふに、

賢所に期日奉告の儀。皇靈殿・神殿に期日御報告の儀があつて、

宮内大臣、國務大臣の副署を以て官報號外無  
號告示で、即位の禮は十一月十日、大嘗祭は  
十一月十四日より十五日に亘つて行はせ遊ば  
される旨を告示せられ、ついで宮中鳳凰の間  
に於て同日午後二時に、神宮・神武天皇山陵  
竝に仁孝天皇・孝明天皇・明治天皇・大正天  
皇、前四代の山陵に御勅使派遣の儀があり  
まして、勅使は畏みて勅を奉じ、一月十九日  
(木)各、由の奉幣に参りました。

次に歐米各國締盟君主及大統領に向けて御大  
禮に参列せられよこの旨を通牒に及ぶのであ  
るに承つて居ります。

大禮の期日御決定、奉告・由の奉幣の儀終れ  
ば今度は大嘗祭に用ゐらせ給ふ神饌、神酒  
(白酒・黒酒)を造るべき稻實採收の齋田を勅  
定せらるるのであります。

齋田勅定 さて大嘗祭の齋田は登極令第八  
條大嘗祭ノ齋田ハ京都以東以南ヲ悠基ノ  
地方トシ、京都以西以北ヲ主基ノ地方ト  
シ、ソノ地方ハ之ヲ勅定ス。

ご規定してありますが、愈々確かな一地方が  
決定せらるるには神秘的儀式が龜甲波波迦迦  
木(上溝標でつくる)を以て、大禮使によ  
りて二月五日(日)宮中三殿の一なる神殿の  
前庭に齋場を設けて行はれました。これを齋  
田の勅定と申します。この勅定の儀によりて、  
悠基齋田は滋賀縣、主基齋田は福岡縣と勅定  
あそばされ、宮内大臣は地方長官たる滋賀縣  
知事、福岡縣知事をして右兩縣下に於て齋田  
を定め其所有者に對し、新穀を供納する手續  
を爲さしむるので、その結果は

悠基齋田 滋賀縣野洲郡三上村大字三上桑田  
春治氏所有地  
主基齋田 福岡縣早良郡脇山村石津新一郎氏  
所有地

ご選定されたのであります。

齋田が愈々勅定しますご其場は非常に神聖な  
るもので、「大嘗祭<sup>悠基齋田</sup>」の文字をしるせ  
る標柱を立てて、竹矢來・忌竹・注連繩を施  
し、祓式、田植式等があり。それから稻の實  
成熟の期が來ますご勅使を派遣して、齋田に  
つき拔穂の式があります。大正天皇の御先例  
によりますれば、悠基齋田は九月二十日、主  
基齋田は九月十九日に各各式がありまして豊  
穰無比の八束穂の美稻は勅使の受納する所ご  
なり、大禮の場所たる京都に送られて神饌並  
に神酒を造る料ごなるのであります。かくて  
大禮使は日増しに其の事務は繁劇を加へ、賢  
所春興殿、大嘗宮の新築、京都皇宮の御修繕、  
大饗宴場や朝集所の御造營及御調度並に諸般  
の裝飾接待のごみや御料理のごみに至るまで  
寸毫の手落なく、充分なる御準備は芽出度整  
ふのであります。

京都行幸の儀 陛下は十一月六日(火)午前  
に神器を奉じて皇后陛下ご御同列で京都皇宮に  
移御遊ばすべく、東京宮城を御出遊遊ばす。  
御鹵簿は國儀式で、供奉諸員や八瀬童子を従  
へさせられ、東京停車場より汽車に御召あそ  
ばすのである。

六日(火)は名古屋離宮に御駐蹕あそばされ、  
翌七日(水)京都皇宮に御移御あそばすごご  
承つて居ります。その御鹵簿の莊重で高雅で神  
神敷しいごごは今から想像いたしても有り難  
い極みであります。

二 即位の禮  
聖上陛下・皇后陛下には九日(金)頃に京都皇  
宮にて畏げれご御大禮の御習禮をあそばさせ  
られ、愈々十一月十日(土)さいふ今日のよき

日を以て御即位の大禮を御あけさせ給ふので  
あります。當日はまづ  
即位禮當日皇靈神殿に奉告の儀 東京宮城の  
皇靈殿神殿に勅使を御發遣になつて御奉告あ  
そばされ、それより京都の皇宮に於て最も森  
嚴なる

即位禮當日賢所大前の儀 があります。賢所  
は紫宸殿の東、即ち建春門を入つた所にあり  
まして、賢所春興殿ご稱し奉り、大正天皇御  
即位の際の御殿がそのまゝ、現存して居ります。  
御構造は南面總坪數五十八坪餘の中に内陣・  
内陣・内陣に分たれ、外降桁行八間半、梁  
間四間半、内陣・内陣の桁行四間梁間三間  
で、全部素木造の御構へで、御屋根は銅板葺  
四圍には白砂(京都市上京區北白河の山中よ  
り産出する花崗岩たる白河石の風化霏爛して  
砂粒ごなつたもの)を敷き御雨溜には那智石  
(那智黒で和歌山縣東牟婁郡三輪崎村大字佐  
野村並に宇久井地方の産出)を詰めます。前  
面に神門がありましたが大正天皇御即位後、  
護王神社(祭神、和氣清麿)に御寄進あそばさ  
れた。現在の護王神社の門がそれである。で  
今度は更に改めて御建てになるであらうごご  
存じます。前庭には二基の大榊を建てそれに一  
方には鏡及勾玉を、一方には劍を掛け奉るの  
であります。さて當日たる十一月十日(土)は  
早旦この春興殿の御裝飾があつて、皇宮の南  
の建禮門ご東の建春門ごが開かれます。聖上  
陛下・皇后陛下は常御殿より渡御遊ばし、天  
皇陛下は侍従の奉仕で御束帶御袍(表裏白、  
練絹)に御召替、御手水を召し、御笏を執ら  
せ給ひ、皇后陛下は女官の奉仕で、御五衣、  
御唐衣、御装を御召あそばす。この間、親王、

親王妃、王、王妃、女王各殿下並に大臣、大  
禮使長官以下(臣下はこの時、建春門外の朝  
集所にあり)何れも服装は男子は束帶、帶劍、  
女子五衣、唐衣、裳に替へます。次に大禮使  
高等官左右各各三人が神門の外掖に参つて衛  
門の本位につく。(服装は束帶、劍、平胡鏡  
弓、絲鞋)かくて賢所の御簾が開れて神饌幣  
物が供へられ、掌典長が祝詞を奏し訖れば、  
午前十時過ぎ、聖上陛下には前記の諸員の供  
奉で御出御遊ばし、  
陛下は内陣の御座に著御遊ばし御告文を奏し  
給ひ、内掌典の奉仕で御鈴の儀あり次いで皇  
后陛下の御拜禮があり。次いで皇族の御拜あ  
らせられて、聖上陛下・皇后陛下入御遊ばさ  
れ、諸員も拜禮してから神樂歌を奏する間に  
神饌を撤し、御扉を閉ぢられ、諸員は退下す  
るのであります。その時は午前十一時過な  
らんかご恐察いたします。以上で賢所大前の  
儀が訖りましたのであります。

御即位當日紫宸殿の儀 次に紫宸殿の御儀で  
あります。紫宸殿は此平面圖の通りで、東西  
百十尺、南北七十五尺程の廣さであります。  
當日早旦紫宸殿の殿上及南庭の御裝飾があり  
ます。先づ殿上の南榮(簀子の軒の壁の所を  
指す)に帽額ごいつて水引幕のやうなものを  
張り、殿後には五彩、縹、白、黄、赤、紫緞  
子を縫ひ合せたる幔幕を張り、母屋の中央南  
面に三層繼臺を立て、上に高御座を置き奉る。  
高御座は黒塗、稍東西に長き八角形で、廣い  
處は五尺九寸三分、狭い處は三尺七寸九分あ  
り。その蓋の上の中央には金色の大形鳳凰が  
一翼を立て、棟上の八角には金色の小形の鳳  
凰各一翼を立つ。搏風の角毎に彩色したる瑞



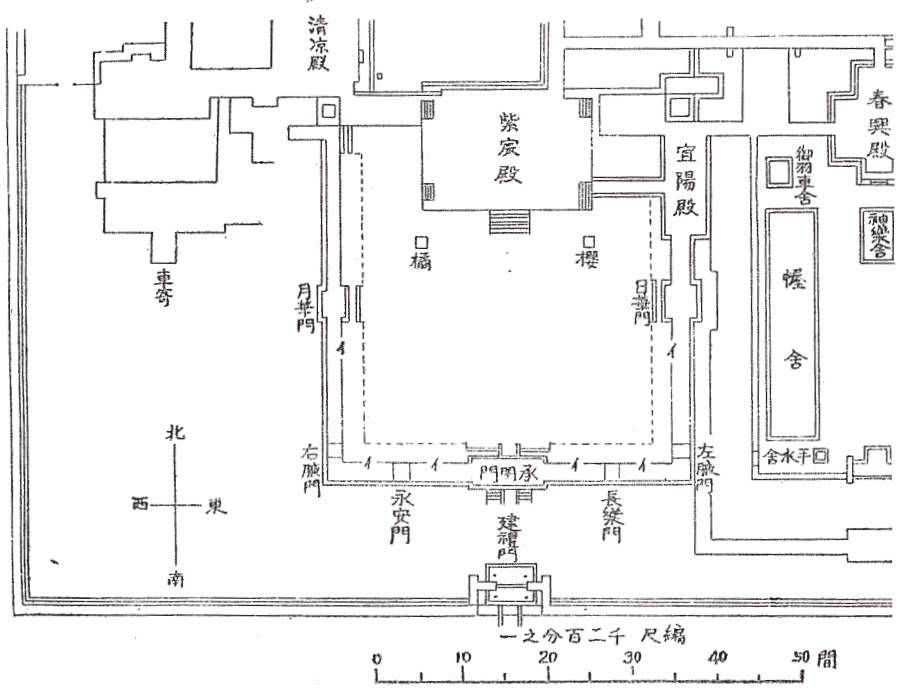
臣民世世相繼キ、忠實公ニ奉ス、義ハ則チ君臣ニシテ情ハ猶ホ父子ノコトク、以テ萬邦無比ノ國體ヲ成セリ。

皇考維新ノ盛運ヲ啓キ、開國ノ宏謨ヲ定メ、祖訓ヲ紹述シテ不磨ノ大典ヲ布キ、皇圖ヲ恢弘シテ曠古ノ偉業ヲ樹ツ、聖德四表ニ光被シ、仁澤遐邇ニ霑洽ス。

朕今不續ヲ鑽キ、遺範ニ遵ヒ、内ハ邦基ヲ固クシテ永ク磐石ノ安ヲ圖リ、外ハ國交ヲ敦クシテ共ニ和平ノ慶ニ賴ラムトス、朕カ祖宗ニ負フ所極メテ重シ。祖宗ノ神靈照鑑上ニ在リ。朕夙夜兢業、天職ヲ全クセムコトヲ期ス。朕ハ爾臣民ノ忠誠其ノ分ヲ守リ、勵精其ノ業ニ從ヒ以テ皇運ヲ扶翼スルコトヲ知ル。庶幾クハ心ヲ同クシ、力ヲ戮セ、倍倍國光ヲ顯揚セムコトヲ、爾臣民其レ克ク朕カ意ヲ體セヨ。

茲に於て總理大臣は鞠躬如きして南階を登り南榮の下に於て嚴かに、壽詞を奏し奉る。壽詞ニ申すは昔は御大禮に中臣民が奏するものでありましたが總理大臣の、讀むのは夫は異りて奉答文の性質を有するもので非常に内容が莊重雄渾であることは大正天皇の御即位式に於ける大隈總理大臣の捧讀した壽詞で明かであります。さて總理大臣は壽詞を奏し畢りて南階を下りて、更に萬歳播の前面に參進して北面し午後三時三十分の隙間に萬歳を三唱し奉りまするに殿上・庭上の諸員一同これに和するのでこの時刻に、百一發の禮砲は殷々々鳴り響き寺院教會の鐘、各工場の汽笛に至るまで一齊に天皇陛下萬歳を祝はぎ、日本全國、北は樺太より南は臺灣の津津浦浦に至るまでのあらゆる人々が、一同に萬歳を三唱

春興殿紫宸殿平殿圖面



し奉るのでありますから、定めしその聲は宇内萬國に轟き渡つて動きないこの大和島根も動かん許りの勢であらうと恐察し奉ります。かくて内閣總理大臣は西階に登り座に復すれば  
 聖上陛下  
 皇后陛下は式部官、警蹕の下に御出御遊させらる。次に、鉦及鼓を撃つこと各三下にして諸員退下し終るのは午後四時三十分頃かと思

ひます。かくて、茲に目出度紫宸殿の儀は終了したのであります。  
 即位禮後一日賢所御神樂の儀 翌十一日(日)賢所に 天皇陛下・皇后陛下が御出御あそばされて御神樂が奏せられ兩陛下の御拜禮があります。  
 以上で即位の禮は終りであります。  
 三 大嘗祭  
 大嘗祭の意義 大嘗祭は昔は「オホニホノマ

ツリ」さいひ、轉して「オホムベノマツリ」にも訓した。これは大新嘗、オホニヒアへの略語で只今では「ダイシャウサイ」を音讀してゐます。こは新嘗陛下御即位の初の十一月新穀を以つて、御饌・御酒を造り、その他の神饌と共に皇祖天照大神並に天神地祇に捧げ給ひ陛下御親らも、開食し給ふ、大祀であります。其後毎年十一月二十三日毎に行はせ給ふのが新嘗祭で、その御由來は明治天皇(一二五二七―一二五七二)の明治元年(一二五二八)十一月十五日の、御布告で明かなる如く古は大嘗祭と新嘗祭との別は無かつたが、第四十代天武天皇(一二三二―一二三六)の、白鳳元年(一二三三)以來年毎に行はせらるるを新嘗祭とし御一代御即位式の際に行はせらるるものを、大嘗祭と定め、諸祭祀中昔から大祀として最も重んぜさせ給ふたのであります。これより大嘗祭につきて述べますが、まづ順序として謹み畏みて  
 大嘗宮の構造 の梗概を申さんに、大嘗宮は大正天皇御大禮の際と同じ場所たる京都御苑内なる仙洞御所址の西南方に新に御造營になる筈であります。今参考の爲め大正天皇の御時の御構營を申し奉らむに、此の平面圖の通り坪数が四千三百四坪、まづ東西十六間、南北十間の柴垣を廻らし其の内に東西六間、南北八間の悠基殿、主基殿、兩帳殿、兩庭積物舎、殿外小忌帳舎、兩小忌帳舎、兩風俗舎、兩樂舎、兩庭燎舎、神門(四方)がある、それから神門の前に藩塀がある(四方)。柴垣の北方に東西五間、南北八間、の廻立殿があり、南方には帷舎がある。以上の建物を取り圍ひて板垣があり、其南方に朝集所(食堂)、調理

所、汽罐室、東南に掌典詰所、内掌典詰所、北には頓宮(大宮御所)がある。

大嘗宮の構造は、大略こんなもので、簡古素朴、恰も神宮本殿の如き御構造であつて、いかにも太古の様を偲ぶに充分で神州の正氣・皇國の美風の象徴で八千萬國民の純粹感情の表現とも申し奉るべきであります。さて愈大嘗祭を行はせらるるに先立つて

御禊の儀、大祓の儀、こががあります。これは登極令に御規定はなきも、御慣例によりて、十一月十二日(月)午前小御所(紫宸殿より長廊下を経て東北に進む處にあり)にて、聖上陛下・皇后陛下の御禊の儀があり、午後には各皇族・大禮使職員・並參列者總代が御祓式を受けるので、これは一切忌事を祓ひ清めたまふ、御旨趣であります。仄に承つて居ります。十三日(火)午後には

大嘗祭前日鎮魂の儀 があります。これは登極令第十三條の規定によることで、京都皇宮小御所に於て 天皇陛下・皇后陛下の玉體を鎮め聖壽萬歳を御祈りあそばす御式であります。それから十四日(水)には 神宮・皇靈殿・神殿・並に官國幣社に勅使派遣の儀があり

大嘗祭當日賢所大前御饌供進の儀 があります。それから愈々森嚴無比の大祀たる、大嘗宮の御儀を行はせ給ふのであります。

大嘗宮の儀 十四日(火) 早旦大嘗宮を裝飾し、午後六時五十四分頃に 天皇陛下は帛の御袍で頓宮より廻立殿に渡御、侍従奉仕で小忌御湯を遊ばし御身を清め給ひて御祭服を申して、いかにも清淨な織り立ての儘の白絹を召し、御冠は御幘といつて白絹で御巾子に御

立纏を結んだのを御被り遊ばし、御手水を供し、御笏を奉る、次に皇后陛下廻立殿に渡御、女官奉仕で御衣・御手水・御檜扇を供す間に供奉の各皇族大臣以下、その人の身分によつて黒袍・緋袍の別はありますが、皆束帶上で小忌衣を加へ日蔭蔓を著ける。小忌衣は白布に山藍の汁で花鳥草木の形を摺りつけたもので本來は長い上着であるが特に帯の邊りまで位の短いのを着ます。さて陛下は廻立殿から布單を申して五尺六寸許の幅の巾を鋪き上に葉薦を鋪いた廻廊を進御遊ばされ、式部長官宮内大臣が御前行を承り、侍従は左右に各一人、脂燭を乗り他の侍従は劔璽を捧持して御前に進み御後には御管蓋を差かけ奉る侍従が居る。それから各皇族・侍従長・侍従武官長・大臣・大禮使長官達の供奉で悠基殿に渡御遊ばして茲に夕御饌を献したまふころの

悠基殿供饌の儀 を遊ばすのであります。即ち前に謹述した悠基齋田より、採取したる穀物により造りたる神饌及び神酒(黒酒・白酒)や將た又、山三物・海のもの總べてを皇祖並天神、地祇に御親供あそばし御告文があつて陛下大身自ら御直會の御箸を執らせられ、それから神饌を撤したまひ廻立殿に御還御遊ばすのは、夜の十時頃か恐察致すのであります。それから陛下は再び十五日から曉の御饌を供したまふ

主基殿供饌の儀 を遊ばすのであつて、其儀は悠基殿供饌の儀と同じであります。まことに此大嘗祭は古人も「神國變なき大事は大嘗祭なり。」も「祭祀は大嘗より重きはなし、教神尊祖の道、報本友始の義咸く備はる。」と申した程で森嚴崇高、何とも形容の詞

のない位に神々しい御大祀で恰も遠い昔の神代に立ち返つた様であらうと存じます。賀茂眞淵翁が(三三七―二四二九)が 貴きや天皇は神ながら神を祭らす今日の新嘗 嘗 とうたひ、八田知紀翁(二四五九―二五三三)が 神の代を遠き昔と思ひしはこのみ手ぶりをしらぬなりけり しまれ、近くは芳賀矢一博士(二五二七―二五八七)が 新しき御代を知らずと天皇は神代なからの大嘗きこす 讀まれたのは尤なことで、まさしく神國日本に親王・諸王並に友邦の使節、在廷の臣僚及び中外朝野各階級の代表者等を豊樂殿に召して大饗を賜はります。謹みて按ずるに即位の禮には神に賢所大前の儀があり、人に紫宸殿の儀がある、二者相待つて大禮の眞意義は發揮せられる。そこで即位禮後に逮びて神を大嘗宮に饗したまひ、人を豊樂殿に饗し給ふ、大嘗の船祀は神人相感の典で豊樂の饗宴は上下交遊の場であるを申すべきであります。さて大饗は登極令によれば第一日と第二日と夜宴との三回に分れて行はせ賜ふのであります。

#### 四 大禮後儀

御即位の禮及大嘗祭が斯に訖らせ遊ばすころ、天皇陛下は十六日から十七日の夜に至るまでに親王・諸王並に友邦の使節、在廷の臣僚及び中外朝野各階級の代表者等を豊樂殿に召して大饗を賜はります。謹みて按ずるに即位の禮には神に賢所大前の儀があり、人に紫宸殿の儀がある、二者相待つて大禮の眞意義は發揮せられる。そこで即位禮後に逮びて神を大嘗宮に饗したまひ、人を豊樂殿に饗し給ふ、大嘗の船祀は神人相感の典で豊樂の饗宴は上下交遊の場であるを申すべきであります。さて大饗は登極令によれば第一日と第二日と夜宴との三回に分れて行はせ賜ふのであります。

即位禮及大嘗祭後大饗第一日の儀 建春門の東方に新建せられたる大饗宴場たる豊樂殿代にて行はせられ、文武百官外國交際官同夫人等が召されて勅語を賜はり、内閣總理大臣

が 神の代を遠き昔と思ひしはこのみ手ぶりをしらぬなりけり しまれ、近くは芳賀矢一博士(二五二七―二五八七)が 新しき御代を知らずと天皇は神代なからの大嘗きこす 讀まれたのは尤なことで、まさしく神國日本に親王・諸王並に友邦の使節、在廷の臣僚及び中外朝野各階級の代表者等を豊樂殿に召して大饗を賜はります。謹みて按ずるに即位の禮には神に賢所大前の儀があり、人に紫宸殿の儀がある、二者相待つて大禮の眞意義は發揮せられる。そこで即位禮後に逮びて神を大嘗宮に饗したまひ、人を豊樂殿に饗し給ふ、大嘗の船祀は神人相感の典で豊樂の饗宴は上下交遊の場であるを申すべきであります。さて大饗は登極令によれば第一日と第二日と夜宴との三回に分れて行はせ賜ふのであります。

之首席外交官との奉答の詞があつて、白酒・黒酒を頂戴し久米舞の風俗舞。大歌。五節舞などを拜觀し。御挿華を賜はるのであります。因に此の日は日本全國各地方で場を設けて一定の有資格者に賜饌があります。之を地方賜饌と申します。

即位禮及び大嘗祭後大饗第二日の儀 これも同じく大饗宴場で行はれますが、こは西洋式で洋樂中に宴を賜はるので勅語もなければ白酒・黒酒の御下賜もない。

即位禮及大嘗祭後大饗夜宴の儀 も同様であるが、この夜は舞樂で萬歳樂・大平樂の二曲を演奏し、次に奏樂中に宴を賜はる云ふ點が異つて居るのであると承つて居ります。かくて即位禮及大嘗祭後神宮親調の儀

即位禮及び大嘗祭後神武天皇山陵並前帝四代の山陵親調の儀 があります。これは申上ぐるまでもなく御大禮が御滞りなく訖りしことを奉告したまひ、寶祚の無窮を祈り神を敬ひ祖先を尊ぶの大道を明かにして大孝を申のべたまふの大御心であります。承るだに畏い極みてあります。

いよいよ御大禮は御濟遊ばしたので 聖上陛下は神器を奉じて皇后陛下と御同列で京都皇宮御發聲、十一月下旬さいふにいさ芽出度く東京宮城に還幸遊ばすのであります。御還幸後に於いては 賢所・温明殿に還御の儀

東京還幸後賢所御神樂の儀 東京還幸後皇靈殿・神殿に親調の儀 があります。かくて茲に登極令による最後の御儀式を終らせ遊ばしたのでございます。

#### 参考文献

故事類苑帝王部(神宮司廳)・故事類苑神祇部・大禮の要旨(文部省)・京都日出新聞・大阪朝日新聞・大阪毎日新聞・六法全書(有斐閣)。

# 階級的觀念形態に於ける社會政策

—社會政策講義の一部分—

關西大學教授 岩崎 卯一

はしがき—本稿は、社會政策に關する私の講義の一小部分を、ある聽講學生のノートに基づき、講義口調に書かれたものです。社會政策の全講義内容中、最も通俗的な部分ですから、學問的價値の乏しいことは自覺してゐますが、普通選舉のため、社會政策なる言葉が、盛んに使用されてゐる今、何等かの暗示ともなればと思ひ、發表しました。

## 目次

- A 序言
  - 一 社會政策の現實化的傾向
  - 二 階級的觀念形態の意義
- B 無産階級的觀念形態における社會政策
  - 三 有産階級の欺瞞政策と觀念
  - 四 (a) 餘剩價值搾取の手段
  - 五 (b) 労働者の無知に乘する狹知的妥協
  - 六 (c) 無意味なる美辭麗句の羅列(以上本號掲載)
- C 有産階級的觀念形態における社會政策(以下次號掲載)
  - 七 無産階級の矯激政策と觀念
  - 八 (a) 共產主義社會樹立の一戦術
  - 九 (b) 日本産業の衰退の原因
  - 〇 (c) 古來の傳統的美風の破壊
- D 結語
  - 一 社會政策と階級政策

社會政策といふ一つの造語は、最近にいたつてたしかに、流行のなかに融けこんだやうであります。しかし、この造語が、唇から耳へ

瀕繁に傳へられるといふだけでは、格別注意に價するやうな社會的重要さをもちません。したがつて、人人がこれに與へる關心の熱度も、微弱であります。特に、有閑有識の紳士達、多分の低回氣分を交へて、社會政策を話題の相の手さするあひだは、それが眞にもつてゐる力は、未だ潜伏時期を脱してゐません。ところが一度、かやうなバーラー社會政策の時期を蟬脱して、生活闘争の修羅場に姿を現すに、これに對する利害關係者の關心は、いやがうへにも深刻になります。更にこれが、餓虎のやうに現實利益の追及に没頭してゐる對立階級群に重大視され、相手方にたいする闘争武器の一つとして採用されるやうになるに、これにたいする兩者の關心は、極端にまで尖鋭化して來ます。今日での社會政策は既に、理念型的商人にも思はれる資本家達の打笑中に座をしめ、同時に、階級闘争意識に燃ゆる労働首領者達の策戦中に關入しはじめました。日本の現状を見るに、社會政策なる造語を種種の效果に向つて使用することが、全く階級闘争の有力な一手段となつた觀があります。

社會政策が、先づ、學問的に何を意味するであらうかとか、次に、この課題にたいして學者達が提出したるものもろの答案がさうであるかとか、更に、わたくし自身が己れのものとする學説はどんなものであるか、といふやうな諸種の問題を取扱ふ仕事は、後の機會に譲りたいと思ひます。ここでは單に、この社會政策を現實政策の一として現に利用し、または、利用しようとしてゐる現實日本社會の階級的見解を、一定の區分原理に準據して、詳細

に吟味して見たいと思ひます。言はば、未だ嚴密な學問によつて洗練純化されてゐない、すなはち、前學問的原材料としての社會政策觀を、見極めてみたいと思ひます。勿論これ等もろもの見解は、多量の偏狭と邪視を含まんでゐませう。しかし何れにしても、利害關係の渦中に巻きこまれてゐる人達の偽らない意見であり、また、その中に強烈な排他的感情が織りこまれてゐる意見でありますから、力強いあるものを暗示してゐます。

## 一

しかしながら、日本の人達が、現在、社會政策にたいしどんな解釋を與へてゐるかを、ただ漫然と述べる譯けにはゆきません。先づ何等かの區分原理を掲げ、これによつて、複雑多様なもろもの見解を、整理してゆく必要があります。この必要に妥當する一區分原理として、ここに「階級的觀念形態」なるものを選びだしたいと思ひます。社會政策の現實政策的意義を、今日のやうに重大ならしめたは、資本主義社會の爛熟から來たこの階級的觀念形態に外ならないと思はれるからであります。

しからば、ここに言ふ階級的觀念形態とは先づ何を意味するであらうか、わたくしは初め、この語の意義を限定したいと思ひます。すなはち、用語の意味について暫定的の約束をしておきたいと思ひます。

そこで先づ、階級の意義を限定する必要があるませう。普通に社會學の領域で、階級といふときには、ある社會の内部で、相互の地位が略同等であるといふことを主要な細帯として結合してゐる人間集團を意味するやうで

あります。この場合に階級觀念の中軸をなしてゐるのは、地位の相互接近といふ點です。この地位の同等は、いろいろの緣由に基いてるませう。が、その中で最も範圍が狭く且つ封鎖的なのは、印度のカストのやうなものでせう。かかる階級では、その地位の獲得が全然出生といふ宿命的事實にのみ制約され、その上に、上下階級間の周流が、全然禁じられてゐます。わが國における封建主義的階級組織のやうなものは、印度のカスト的階級制を稍稍緩和したものであります。しかし、社會學で問題とする階級の意味については、これを詳細に吟味する他の機會をもつてゐますし、また、今ここで問題にしてゐるころの階級的觀念形態は、直接重要な交渉をもつてゐませんから、省略しておきます。

ここで問題にしようと思ふのは、社會主義者が主張する階級の意義であります。それは、資本主義社會の内部で、しかも資本主義がもつ特殊の機構によつて、自然に生みだされた階級を意味するものであります。それは、出生の尊卑による階級別でもありません。また、風俗、習慣、思想、趣味、教養の差に基づく階級別でもありません。更にまたそれは、職業別による社會分化と必ずしも一致しません。それは、資本主義的社會組織がもたらす經濟利害の一致、さりわけ、所得源泉の一致に基づく、有産無産の階級別であります。マルクスは大體、近世社會の三大階級として、地主階級、資本階級、労働階級を挙げました。が、わたくしは、これを一層縮約し、社會主義者達が好んで口にする有産階級、市民階級、紳士階級、特權階級なき、俗にいふ第三階級を、

右に置いて「有産階級」を、無産階級、労働者階級、勤勞者階級など、いはゆる第四階級を、左に置いて、「無産階級」をなづけようと思ひます。その理由の一は、前者が地主、資本の提供者、または大企業の運業者として餘剰價値の分配行程に有利な地位を共有するに反し、後者が、賃銀労働者として絶えず不利な地位を共有する點です。その理由の二は、前者が多量なる産をもつもの多く、後者がこれを持たないものが多いがゆえです。そこでこれ等の諸事情を充分考察して、有産階級と無産階級の二つに大別したのであります。

つぎに、階級的觀念形態の意義を限定する必要があります。觀念形態といふ言葉は、普通イデオロギー (Ideologie) といふ原語をもつて慣用せられてゐます。イデオロギーについての哲學的の意味解明は、この場合あまり重要と思はれないので、これに觸れることを忌避します。イデオロギーを階級といふ形容詞と接合して解する場合には、哲學的意味から全然離れた特殊の意味をもつものであります。簡單に言ふと、それは一種の社會意識を意味し、また、一種の精神文化内容をも意味します。ところが、特に今日のやうに、資本主義的社會組織がやうやく爛熟の域に達し、社會文化の内容がいよいよ複雑になつて來ます。昔から慣用されたイデオロギーといふ語も、漸時轉義し、社會意識または精神文化内容を意味するよりも、むしろ、ある階級思想の把握方法を指すやうになりました。

今日の社會關係がはなはだしく複雑であること同じ程度に、各人の生活態様もまたそれぞれ分裂してゐます。それは、人人がもつ意識内

容さか文化内容ばかりでなく、思想または觀念の把握方法そのものまでが、各人の生活を制約する階級によつて、異なる様相を呈するやうになりました。したがつて、人人がいだいてゐる觀念形態も、今日では決して單一色なものではなくして、むしろ人人の生活を條件づける階級的色彩の種種相によりて、必然的に染めだされてゐます。かかる階級的觀念形態は、何によつて醸生されたものでありませうか。それは、先づ、生産にたいしてもつ人相互間の關係、つぎに、その生産關係が發展した經濟關係一般における人人の位置、更に、この經濟關係を基礎としてその上に築きあげられた社會關係一般における人人の相互關係が、人人の生活態様を制約すると同時に、人人の觀念形態をも決定するからであります。要するに、人間はその生活條件の相違に基いて、その利害關係が對應的に違つて來るばかりでなく、更に進んで、その人がもつ社會觀、人生觀、はたまた世界觀そのものまで、異つて來るのであります。ところが、今日この資本主義社會を顧るに、富の生産領域においても、經濟關係一般の領域においても、つまり、社會の基礎的機構を通じて、恵まれた人人、すなはち、有産階級に屬する人達は、優越の地位を占め、恵まれない人人、すなはち、無産階級に屬する人達は、劣弱の地位を占めてゐるやうであります。かやうな事情は、その上層建築である社會組織一般にも直接間接に影響します。そのために、有産階級は、その階級に特有な色彩を帯びた社會意識、または、文化觀念をもち、無産階級は、同じやうに、その階級的利害關係に對應する

ところの獨自な社會意識、または、文化觀念を構成するやうになりました。つまり階級的觀念形態をもつやうになつたのです。人人が把握する見地そのものまでが、階級的に分裂したのであります。たゞせば、地主さか、資本家さか、企業家さか、労働者さか、農民さか、あつたものを觀念するにあつて、自分だけは公平無私な見解を抱いてゐるやうに反省してゐても、その觀念を客觀的に批判するに、みな各々が寄屬する階級の色彩によつて、潤色せられてゐるやうなものです。そればかりでなく、同じく有産階級といふ大きな範疇のなかでも、また、生活條件の本質が根本的に相違してゐるに、若しその派生的な生活條件さへ相違してゐれば、その内部にそれぞれ異つた小階級的觀念形態の發生する可能性があります。同じ有産階級の内部でも、地主階級と企業階級のあいだ、また、同じ無産階級の陣營でも、都市の工場労働者と農村の小作人とのあいだに、それぞれ異つた觀念形態が見出されるやうなのは、その一例であります。はなはだしい人になるに、冷靜超俗の學者が提唱する學說であつても、結局、階級的觀念形態の所産に外ならないと叫んでゐます。かやうな階級的觀念形態は、階級そのものの盛衰と運命を共にするものであります。それは、階級ごごもに發生し、成長し、發展し、爛熟し、崩壊するものであります。しかるに、最近の日本は、資本主義社會の發展期もしくは爛熟期に到達したらしく思へるので、もはや崩壊を前にした資本主義の末期に入つた主張する人もあるが、有産階級的觀念形態が、全盛を極め、一世を風靡してゐる觀があ

ります。しかし、この有産階級的觀念形態を打破しようとする無産階級的觀念形態も、春の若草のやうに漸次勢を加へて來ました。そこで、今問題としてゐる社會政策の意義について、それが兩階級の生活條件に直接觸れるところが多い關係上、これら二つの階級的觀念形態によつて徹頭徹尾正反對に把握されてゐるのは、止むを得ないことだと思ひます。また、當然なことでもあります。

三

先づ最初に、日本の無産階級的觀念形態において、社會政策が今ごんな風に理解せられてゐるかを吟味してみたいと思ひます。が、包括的に無産階級といつてみたところで、それは純粹な單一體をなしてゐるものではなく、最近になつてから特に色彩を鮮明にして來た労働組合運動や、または、無産政黨運動なきが、その傾向が明示してゐるやうに、無産階級の構成要素には、思想的に、右翼、中央、左翼の三派が認められます。これらのうちでも、その右翼に位置してゐる無産階級のごごきは、小市民階級をその内容とする關係上、有産階級中の左翼さあまり違はないはご、その把持する觀念形態が曖昧であります。また、中央に位置してゐる無産階級のごごきも、その階級的態度が微温的であります。由來、中堅派といふものは、右翼と左翼によつて主張される理論闘争と實踐闘争との妥協點をなすもので、性質上それ自らは積極的な何等の主張をもたないものであります。これに反して左翼は、無産階級的觀念形態の極限點をなしてゐる關係上、その主張するところが極めて積極的であり、また、著しく鮮明で

先づ最初に、日本の無産階級的觀念形態において、社會政策が今ごんな風に理解せられてゐるかを吟味してみたいと思ひます。が、包括的に無産階級といつてみたところで、それは純粹な單一體をなしてゐるものではなく、最近になつてから特に色彩を鮮明にして來た労働組合運動や、または、無産政黨運動なきが、その傾向が明示してゐるやうに、無産階級の構成要素には、思想的に、右翼、中央、左翼の三派が認められます。これらのうちでも、その右翼に位置してゐる無産階級のごごきは、小市民階級をその内容とする關係上、有産階級中の左翼さあまり違はないはご、その把持する觀念形態が曖昧であります。また、中央に位置してゐる無産階級のごごきも、その階級的態度が微温的であります。由來、中堅派といふものは、右翼と左翼によつて主張される理論闘争と實踐闘争との妥協點をなすもので、性質上それ自らは積極的な何等の主張をもたないものであります。これに反して左翼は、無産階級的觀念形態の極限點をなしてゐる關係上、その主張するところが極めて積極的であり、また、著しく鮮明で

先づ最初に、日本の無産階級的觀念形態において、社會政策が今ごんな風に理解せられてゐるかを吟味してみたいと思ひます。が、包括的に無産階級といつてみたところで、それは純粹な單一體をなしてゐるものではなく、最近になつてから特に色彩を鮮明にして來た労働組合運動や、または、無産政黨運動なきが、その傾向が明示してゐるやうに、無産階級の構成要素には、思想的に、右翼、中央、左翼の三派が認められます。これらのうちでも、その右翼に位置してゐる無産階級のごごきは、小市民階級をその内容とする關係上、有産階級中の左翼さあまり違はないはご、その把持する觀念形態が曖昧であります。また、中央に位置してゐる無産階級のごごきも、その階級的態度が微温的であります。由來、中堅派といふものは、右翼と左翼によつて主張される理論闘争と實踐闘争との妥協點をなすもので、性質上それ自らは積極的な何等の主張をもたないものであります。これに反して左翼は、無産階級的觀念形態の極限點をなしてゐる關係上、その主張するところが極めて積極的であり、また、著しく鮮明で



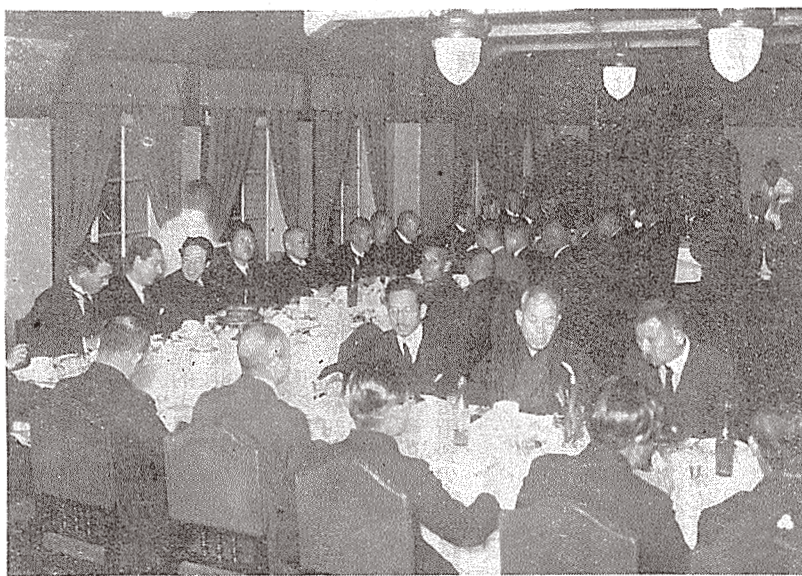
あります。換言するに、左翼の立場なり主張  
なりは、無産階級の觀念形態の理念型をなす  
ものであります。そこで、わたくしは、無産  
階級がごんなに社會政策を觀念してゐるかを  
吟味にあたつて、右翼および中堅の觀念形態  
をしばらく留保し、ただ左翼の人達が抱いて  
ゐる觀念形態に準據して仕事を進めたいと欲  
します。

無産階級の觀念形態に描かれてゐる社會政策  
を、一言にしてつくすに、それは、有産階級の  
欺瞞政策に過ぎないとしてゐるやうでありま  
す。「有産階級は、現在の資本主義的經濟社會  
で絶えず有利な地位を占めてゐる關係上、そ  
の上層建築である法律の世界、政治の世界、  
道德宗教の世界、更に學問の世界にも、自由  
にその魔手を延ばすことが出来る。たゞはば、  
法律家をして姑息な社會立法を叫ばせ、政治  
家をして欺瞞的な社會政策を標榜せしめ、宗  
教家をして空念佛に等しい精神改造を提唱さ  
せ、藝術家をして感傷的な人間建築を説かし  
め、最後に學者をして高踏貴族的な社會政策  
學を講ぜしめてゐるのだ」と、無産階級は觀  
念してゐるやうであります。又これらの總て  
を以て、有産階級の永遠的繁榮を確保し、且  
つ、虐げられてゐる無産階級を現状のままに  
放棄しようとする一種巧妙な瞞着手段である  
と考へてゐるやうです。その結果、無産階級  
の左翼は、社會政策といふものが、法律家であ  
らうと、政治家であらうと、宗教家であら  
うと、藝術家であらうと、それらの誰れから  
巧妙に説かれても、全然信用を置かないやう  
であります。そればかりでなく、たゞひそれ  
が無産階級の一角から叫ばれても、これを憎

悪するか、蔑視するか、はたまた、これを無視  
しようとする強い傾向があります。これらの  
傾向はすべて、現在唱へられてゐる社會政策  
を以て有産階級による、有産階級のためにす  
る、有産階級の社會政策だとして豫斷してゐるに  
基因してをりま  
す。わたくしは、  
これから、この  
無産階級の觀念  
形態における社  
會政策觀を、一  
層詳細に吟味し  
てみたいと思ひ  
ます。

第一に、無産階  
級の觀念形態  
は、社會政策を  
以て、有産階級  
が剩餘價值を榨  
取する新たな手  
段として考案さ  
れたものだと思  
てゐるやうで  
す。同じく人間  
として生を享受  
しながら、社會  
人中の極めて少數の人達だけが、格別優れた  
賦性の持主といふのでもないのに、また、目  
立つて勤勉だといふこともないのに、不思議  
にも莫大な富を私してゐる。そればかりでな  
く、その富の力によりて、社會生活のあらゆる  
方面に優越的特權を誇つてゐる。これは

#### 四



(照參報内學號前) 會露披任就事理務專

何に原因するであらうか。それは外でもない。  
労働者が鐵鎖に縛れた、奴隷のやうに營營と  
生産に従事して生み出した富、すなはち經濟  
價值を、有産階級が資本主義生産關係の法律  
的表現である私有財産制度によつて、搾取掠  
奪した結果であ  
る」と、社會主  
義者達は説いて  
ゐます。「經濟價  
値すなはち、生  
産行程から消費  
行程に流れてゐ  
る富は、全部勞  
働者の勞働力に  
よつて出来上つ  
たものである。  
しかるに、この  
行程のあらゆる  
部分で資本家は  
掠奪する。すな  
はち資本家は、  
その富の全部を  
一先づ自分の手  
に納め、眞實の  
生産者である勞  
働者には、人間  
の生物的生活を

支ゆるにも足りない程僅かな賃銀を支給し、  
その剩餘部分は全部そのまま自分の手許にこ  
ぎめて私有する。これが資本家の慣例であ  
り又特權である。つまり資本家は労働者の勞  
働力を搾取して私腹を肥やしてゐるのだ」と、  
無産階級は解してゐるやうであります。が、

何といふても、勞働力は、如何なる形態の富  
の生産上にも欠くことのないものであるであ  
ります。労働の協力なき資本は無意味でありま  
す。そこで、資本家にとつては、土地が重要  
である以上に、資本の固定化した機械は一層  
重要でありませう。その機械と同じ程度に勞  
働者の勞働力も亦彼等にとつて重要でありま  
す。露骨な表現を許されるに、今日の資本主  
義における労働者は一種の機械であります。  
しかも、血と肉でかためたところの傷み易  
い機械であります。そこで、血と肉でかた  
められた機械としての労働者に、鐵と電氣で  
かためられた機械そのものに注ぐほどの注  
意を拂ふことは、人道的立場からでなくとも、  
商品の生産能力を極度に發揮し、資本家の懐  
に入る、剩餘價值を益益増大する點からいつ  
ても、絶対に必要であります。そこで、餘り  
に甚だしく人的機械である労働者を虐使酷遇  
することは、物的機械を亂暴に取扱ふのと同  
じやうに、結局、資本家の懐を肥大ならしむ  
る剩餘價值の量を減少することになります。  
ここにおいて資本家は、全然辛辣な功利的見  
地から、二つの打算的な新手段を案出しまし  
た。その一は生産における能率増進方法であ  
り、その二はここに問題とする社會政策の實  
施であるに、無産階級は觀念してゐるやうで  
あります。この頃流行してゐる能率増進方法  
の應用は、あるひは一國産業を隆盛にするた  
めか、あるひは労働者の収入を増加するた  
めか、人聞きのよい美名の下に、人心を幻  
惑してゐるが、結局は、人的機械としての勞  
働者の勞働力を極度に虐使し、資本家の剩餘  
價值を増大せしめようとする、最も殘酷な新

搾取方法であり、またこの頌勢を得て來た社會政策の微温的な實施は、物的機械に請をつけないために適宜な油をさすと同じく、勞働者の勞働力が涸渇しないための、またその限りにおいての、新たな掠奪手段であるこの觀念してゐるやうであります。甚だしいのなるこ、有産階級が唱導實施しようとしてゐる社會政策を以て、喰はるべき運命にある豚（勞働者）を一時肥やすため、食物をやるに等しい暴舉であるを罵倒してゐる者もあります。

五

第二に、無産階級的觀念形態は、社會政策を以て、有産階級が、勞働者の無知無識を利用すべく案出した狡猾的妥協策に過ぎない、見てゐるやうであります。由來、有産階級は、無産階級は、知的教養を異にしてゐます。有産階級は恵まれた生活環境に成育されてゐるので、學校教育においては勿論、社會に乗出してからでも、その知識見聞において、無産階級に比し、はるかに優越の地位を占めてゐます。有産階級は、單に個人的事情において恵まれてゐるばかりでなく、その支配してゐる富の魔力、黄金の權威は、政治家とか、法律家とか、宗教家とか、學者とかいふイリテリゲンチアを完全に自家藥籠中のものとして買収することができます。これ等のインテリゲンチアは、有産階級の高雅らしく見える市民的教養と金力の巧妙な利用によつて、意識的にまた無意識的に好意を寄せるやうになり、何時の間にか、有産階級の熱心な代辯者となる傾きがあります。したがつて、有産階級は、自己の欲するままに、ある問題についての知識を壟斷し、宣傳または逆宣傳をす

ることが出來ます。その最も極端な例としては、米國あたりでよく見受けられる新聞紙の資本主義化、すなはち、輿論の資本主義的統制を擧げることが出來ませう。

これに反し、無産階級は、わづかに義務教育の恩恵を享受するだけであります。一度小學校の門を出るやいなや、彼等を待構へてゐる社會環境は、陋屋裡の布團から、機械が亂舞する工場への往復だけでありませう。しかも、その義務教育たるや、彼等に供給せられる社會の知識は大部分、有産階級に好意をもつ官吏または教育家によつて取捨撰擇されたものであるから、巧妙精緻な資本主義社會のカラクリについては、何等觸れるところがありません。社會の荒波に乗出し、機械と塵埃を一生の友とし暮すやうになつてからでも、貧乏と疲勞と無閑暇とは、新たな知識の攝取を妨げ、彼等を慇懃無識にするばかりです。たまたま工場を巡廻する一種の講演業者達から、精神修養の急務とか、物質生活の蔑視とかを説かれることがあつても、これ等の人達は重たい知識を供給してくるはずがありません。そこで、無産階級の悲戯である貧乏は、ただ物質生活の領域ばかりでなく、知識、すなはち頭において特に甚だしいのです。かくのごとく知識を獨占してゐる有産階級が、嚴重な檢閲を試みたのち、有産階級に有益無害だとして、無知無識な、無産階級に押賣りしようとしてゐる一つに、なんらか新味を帯びてゐるらしく思へる社會政策がある、無産階級的觀念形態は見てゐるやうであります。資

本家が、工場内に猫額大の庭園を作つたり、

食堂の外観を美麗にしたり、便所を珍らしくも水洗式にしたり、寄宿舎の屋根を綠色にしたり、ラヂオを取付けたり、茶の湯生花の講習會を催ふしたり、ピンポン臺を設置したりして、一見いかにも社會政策の趣旨を體し、温情主義の美點を發揮してゐるかのごとく装ふも、これらは悉く、末梢神經的な小施設を以て、中樞神經的な大問題である勞働時間の短縮、賃銀の値上げ、工場管理、勞働組合などの運動を、欺瞞阻止しようとする狡猾奸策である。これら、無産階級の生命とする中樞神經的大問題は、既に没落の運命にある資本主義社會に、カンフル注射を施すに等しい社會政策のやうな瞞着政策をもつては解決し得るものではない。社會政策のやうなもの、勞働者の無知に乗する狡猾的な妥協案だから、斷然排棄して辨證法的唯物論を指導原理とする社會主義革命の理論と實踐とに目覺めよと、無産階級の左翼は叫びつづけてゐるやうです。

六

第三に、無産階級的觀念形態は、社會政策を以て有産階級の代辯者たるインテリゲンチアが、單に美辭麗句を羅列した文字の遊戯にすぎない、觀察してゐるやうであります。彼等は言ひます。「見よ。今日、小市民階級の學者なるものによつて、勿體らしく説かれる社會政策の正體を。社會政策學者は、今日餓死しようとしてゐる無産階級を如何にして明日救済すべきかの具體案を提出しない。終日機械同居し極度に疲勞してゐる勞働階級を如何にして即時に元氣回復せしむべきかの現實對策を講じない。地代とか利子とか、餘剩價

値を掠取しながら無爲徒食してゐる有産階級を、働かない者は喰ふべからずとの原則により、即刻勞働者の地位に引下ぐべき國家政策については何等顧慮しない。しかしして曰く、社會政策の理念は、階級闘争にあらずして普遍妥當的な文化價値の實現であるとか、社會政策の手段は、プロレタリア獨裁にあらずして意志の自由を基調とする精神政策であるとか。彼等はただ、抽象論理の遊戯に法悦を感じ、知識の豊富に自己陶醉してゐる。これらすべては、如何にも深遠な理論の展開のやうに見えて、その實何等の現實的意義をもたない幻惑文字の亂舞である。畢竟、生臭坊主の空念佛にすぎない。」

更に、無産階級的觀念形態は、學者が説く社會政策にたいし、極度の侮蔑を投げかけてゐるやうであります。「元來、社會政策學者の成立そのものが、獨逸における資本主義經濟學者の一群によつて構成されたものである。その動機は、資本主義社會の維持存続を希願し、且つ、勞働運動の現實的潮流を阻止するにあつた。だから、社會政策學者のブルジョア學者達は、はじめは幾分か現實に觸れてゐた。ところが、後に輩出する社會政策學者達は、何時の間にか、社會政策を「學」に昇格（？）するこゝによつて闘争の舞臺である現實から遊離して、雲の上に登らうとした。その手段の一つとして、何人にも平易に理解せらるべき社會政策を説明するに、難解なる哲學上の術語を借り來つて、有閑にして且つ有産なる少數の學生を悦ばせようとした。これは、無産階級の勃興を指導する一原理たるべき「平民

(第一四頁へ續く)

# 學 內 報

## 學部卒業試験施行

本學年度學部各科卒業試験を左の通り施行した。

二月一日より二月二十一日まで

## 大學豫科修了試験施行

本學年度大學豫科修了試験を左の通り施行した。

二月十六日より二月二十三日まで

## 專門部卒業試験施行

本學年度專門部各科卒業試験を左の通り施行した。

二月七日より二月二十二日まで

## 第三學期授業終了

本學年度第三學期授業は左の通り終了した。

學部各科第一、二學年 二月二十六日まで

大學豫科第一、二學年 二月二十六日まで

專門部各科第一、二學年 二月四日まで

本學年度學部各科第一、二學年及び大學豫科

第一、二學年試験を左の通り施行の筈。

學部 三月一日より三月十六日まで

大學豫科 三月一日より三月七日まで

## 專門部學年試験施行

本學年度專門部各科第一、二學年學年試験を左の通り施行した。

二月二十三日より三月九日まで

## 卒業式舉行豫報

本學學部第四回、專門部第四十回卒業式は大學豫科修了式、附屬關西甲種商業學校第十三回及び同關西大學第二商業學校第三回卒業式を兼ねて本月二十日午前十一時から千里山學舎講堂に於て舉行の筈である。



## 役員會並調査

### 委員會開催

二月十四日午後四時三十分から市内堂ビル清交社にて本學役員會並びに調査委員會を開催して種種打合せするところがあつた。

## 建築委員會

昨年末の協議委員會に於て砂川雄峻、武田貞之助、川崎齊一郎、黒田莊次郎、内藤正剛の五氏を委員に選び、建築委員會を組織して、理事會と協力し、福島學舎の新築移轉事業を遂行することに決定したが、その第一回會合を

二月十四日堂ビル清交社に於ける役員會に引續いて開催した。當日會合の結果御大典記念事業として至急工事に着手し、昭和四年の夏までに約五千人の學生を收容するに足る耐震耐火三層の學舎を完成する豫定で實行にかかることになった。

## 留學生派遣

左の兩氏は今回本學留學生として歐米各國にそれぞれ留學することに決定した。

中村良之助氏 經濟地理學研究の爲め歐洲諸國に約二ヶ年間留學の豫定、因に氏は昭和二年本學經濟學部經濟學科卒業後本學講師として大學豫科及び專門部に教職を奉



本學留學生に決定したる  
(上)氏郎太林と(下)氏助之良村中

じてゐる新進の士である。

林 太郎氏 交通政策研究の爲め約二ヶ年間、主としてアメリカに留學の豫定、氏は昭和二年本學法文學部法律學科卒業後一年志願兵として軍隊生活を経験し來つたが、在學中は千里山野球部選手として全國野球界に名を響かせた人である。

## 京大教授講師招待

増山、喜多村兩專務理事は二月二十一日午後五時京都帝國大學樂友會館に於て本學に關係ある京大諸教授講師を招待し、新任の挨拶を兼ねて新學期開講につき種種援助を依頼したるところ、何れも專攻科目の擔任又は適任者の人選を承諾せられた。因に當日出席の諸氏は左の通りであつた。

### 京都帝大側

法學博士	中島玉吉
同	竹田省
同	井上直三郎
同	宮本英脩
同	烏賀陽然良
同	山田正三
同	末廣重雄
同	千賀鶴太郎
同	佐々木惣一
同	財部靜治
同	松本文三郎
同	小西重
同	石橋五郎
同	佐治謙讓
法學士	瀧澤喜子雄
經濟學士	森耕二郎
同	蜷川虎三

### 本學側

專務理事	喜多村桂一郎
專務理事	増山忠次
事務長	松山藤雄

## 本學關係新代議士

二月二十日の總選舉に於て衆議院議員に當選

の榮冠を得られた本學關係者諸氏左の如くである。茲に錄して慶祝の微意を表するに同時に諸氏が益國事に盡瘁せられんことを祈る次第である。

- 大阪府選出 (明二二法) 武内 作平氏
- 同 (明三四法) 廣瀬 德藏氏
- 同 (舊講師) 岩崎 幸次郎氏
- 同 (同) 勝田 永吉氏
- 兵庫縣選出 (明二七法) 野田 文一郎氏
- 同 (舊講師) 清瀬 一郎氏
- 茨城縣選出 (評議員) 内田 信也氏
- 愛知縣選出 (舊講師) 瀧 正雄氏
- 秋田縣選出 (同) 田中 隆三氏
- 岡山縣選出 (同) 小川 郷太郎氏
- 廣島縣選出 (推) 藤田 憲水氏

役員會並建築委員會開催

三月二日午後五時から市内堂ビル清交社にて本學役員會並びに建築委員會を開催した。

千里山親睦會開催

千里山學舎教職員より成る千里山親睦會では喜多村・増山兩事務理事歓迎の意を兼ね三月三日午後五時から市内中之島、大阪ビルディング八階大廣間に於て、兩事務理事を招待し一夕の宴を張つた。定刻主賓始め會員多數出席、一同食卓を共にし、デザート・コースに入るや親睦會幹事小泉教授は一場の挨拶をなして兩事務理事歓迎の意を述べ、喜多村・増山兩氏各これに對ふるに、ところあり盛會裡に午後九時散會した。

附屬關西甲種商業學校彙報

卒業試験施行 二月二十日から同二十五日

まで本學年度卒業試験を施行した。來學年度生徒募集 本校では昭和三年度生徒を左の通り募集する。

- 一 募集人員 第一學年 約二〇〇名
- 二 入學考查期日 三月二十六日

教諭後閑宣太郎氏の計 本校教諭後閑宣太郎氏は豫ねて病臥中のところ二月二十八日朝病草り遂に逝去せられた。葬儀は翌二十九日午後三時から伊丹町火葬場に於て盛大に營まれ本校校長事務取扱垂水善太郎氏は左の如き弔辭を讀んだ。因に氏は早稻田大學卒業後大正二年、本校に入り格勤十五年、會つて關西大學講師たりしことあり、その學識と德望とは沈く後進の渴仰するところであつた。

弔辭

維時昭和三年二月二十八日關西甲種商業學校教諭後閑宣太郎君溘焉として長逝せらる。嗚呼哀しい哉、君夙に早稻田大學を卒業し大阪府立天王寺中學教諭となる大正二年四月我校を開始するに方り、君來りて英語專任教諭なる草創多端の際君廣精職に當り、著著功に就く爾來十有五年、格勤一日の如く富贍の學力を以て、専心懇篤、循循として師導す、故を以て諸生尊信悅服し卒業校を去る者、皆益益思慕せざるは莫し、德望の隆なる、洵に我校の範たり、昭和二年四月、疾を以て休職、閑に就きて靜養し徐に恢復の日を俟ちしに、豈に意はんや荏苒歳を踰え、絡に起たざらんごは、嗚呼曼夫弔ます何ぞ斯人を奪ふの速なる哀しい哉、君資性温厚誠實、聰明内に蘊む術はず競はず恬淡寡黙、時に言を發すれば、侃諤剴切、人服せざる莫し、所謂斯人云はず云

へば必ず中にある者也、君既に英文學に遼す兼ねて國文學に通ず、才想迸る所、筆端奇警、尤も諷刺に富む、又和歌を嗜み、時に詠懷興を遣れば、風姿矯矯、自ら一體を爲す文質彬彬、誠に君子の人也而も昨忽ち其の計を傳へ今日其の柩を送る哀しい哉、嗚呼英魂一去、呼べきも返へらず北邙雲迷うて、黯然傷心、靈前に拜跪して涕溢れ胸塞がり云ふ所を知らず尙くば嚶けよ。

昭和三年二月二十九日

關西大學理事、關西甲種商業學校校長事務取扱 垂水善太郎

附屬第二商業學校彙報

卒業試験施行 一月十三日から同二十日まで本學年度卒業試験を施行した。

職員會議開催 二月二十八日午後三時から職員會議を開き卒業學級の及落判定を議した。

學年試驗施行 本校第一、二學年第三學期授業は三月二日を以て終了し同三日より九日まで學年試驗を施行した。

來學年度生徒募集 本校では昭和三年度の生徒を左の通り募集する。

- 一 募集人員 第一學年 一八〇名
- 二 入學考查期日 三月二十五日

正誤

前號學内報記事「本學關係國家試驗登第者」に關し大正十五年專門部法律學科卒業植田完治氏より御注意の書信に接しました。左に掲げて記事の誤を正すに同時に同氏に對し感謝の意を表します。

一、大正十二年法律第五十二號に據る試験合格者氏名中藤崎峻とあるも藤崎峻なる人は明大大學

部出身にて小生と個人的に親交ある人に有之關西大學關係者ではありませぬ。

尤も大一五專法出身者に藤崎峻氏有之も全く別氏にて同姓なるもその名は峻と峻の相違あり峻氏は全く同試験を受験せし事無之由。

一、(大一五專法)矢野熊一氏は目下渡邊菊之助氏方にて辯護士として法律事務に携り居り小生と同様司法科試験を受験昭和二年同試験に合格致しました(下略)。

教授中村鄧次郎氏の轉居

本學教授中村鄧次郎氏は今般左記へ轉居せられた。

大阪府三島郡茨木町字新庄町七四九吉岡方

千里山學報維持費受領報告

(到着順)

- 金拾圓也 大八專商 小笠原 延 彌氏
- 金貳圓也 推 西村 孝 三氏
- 金五圓也 大三專大商 後藤田德太郎氏
- 金貳圓也 昭二專商 牧野 保 雄氏
- 金五圓也 昭二專商 辻野 丈 治氏
- 金貳圓也 昭二專商 秋山 好 弘氏
- 金貳圓也 明二專文 長谷 一 成氏
- 金貳圓也 大八專法 岩窪 一 雄氏
- 金貳圓也 大八專法 大山 丈 次氏
- 金貳圓也 大八專法 中 新 猛 夫氏
- 金貳圓也 大八專法 近 藤 賢 次氏
- 金貳圓也 明二專法 村 松 岩 吉氏
- 金貳圓也 大八專法 米 谷 一 郎氏
- 金貳圓也 大八專法 木 下 光 雄氏
- 金參圓也 大八專法 三 木 盛 男氏
- 金四圓也 明三專法 山田 榮次 郎氏

# 校友の面影

▲衆議院議員 辯護士 野田文一郎氏▲  
關西大學協議員 (明治廿七年關西法律學校出身)

國民多年の要望と期待を受けて、我國憲政史上に一新紀元を劃する最初の普通選挙は去月二十日内外上下還視の裡に滞りなく行はれた。由來馬を中原に進め相角逐するは最も男性的なことである。苦酸數句、中原の鹿を獲たるものの得意や思ふべしである。一日筆者は兵庫縣第一區より立つて多衆の與望を擔ひ、美事に當選された校友野田文一郎氏を訪れて、親しくその御感想を聞くことが出来た。氏はその温顔に微笑を湛えながら今回の普通選挙の感想を左の如く語られた。

「非常な好成绩でした。非常な進歩です。普通選挙は、一般有権者の覺醒してゐるここより言へば、實施の機が寧ろ遅かつたかの感がある。私は従前からこのことを言つてゐた。何故ならば選挙界の空氣と言ふものは、簡單に有権者のみに依つて醸されるものではない。殊に以前の如く有権者の數が少數に限定されてゐた時には特にこの感が深かつたのである。選挙界の空氣は、有権者のみならず、一般民衆、さりとて青年を含むものから醸成されるものである。殊に地方なごでは、選挙の世話をする青年なごの言論は非常にその地方の選挙界の空氣を動かすものである。今度の普通選挙は意外に好成绩でした。進歩です、がしかし、それだからと言つて誰でも彼でも立候補さへすれば容易に當選出来るやうに思ふのは間違

でせう。普通選挙になつてから最も感じた特長としては、從來は演説會の大體の空氣と選挙の結果とが一致する言ふやうなことは殆んど稀であつたが、今度普通選挙になつてからはさう言ふことがなく大體演説會の空氣によつて票數を豫想し得られるやうに思つた。そして最も喜ぶべきことは辯説の巧拙も勿論除外は出来まいが、何よりも聴衆が演説の内容をよく詮議し理解し判断する言ふことであつた私の経験で言へば、聴衆が一般に、辯士の演説中に表はれる個人攻撃を嫌ふ氣味があり、そして反對

黨並に自黨の政策を比較しつつ説くことを好んで聞く風があつたことです。」  
氏は尙近時母校の著しい發展を祝し、往時を追懐し、まるで隔世の感があるを語られた。左に氏の略歴を述べてその風格を傳へよう。  
氏は明治五年廣島縣双三郡に生れ、日彰館中學を卒業後、年十八の時單身大阪に遊び、大阪地方裁判所に書記を勤むる傍ら、明治二十四年關西法律學校に入り同二十七年卒業した、



野田文一郎氏

卒業後尙孜孜として研學を續け、明治三十一年判檢事、辯護士試験に登第し大津地方裁判所に司法官補として赴任した。出郷以來獨立自助を念じて勤勞に學事に、辛さに苦心を嘗めた。大津に留ること約十ヶ月の後、彦根に轉じ約半歳を閑し、二回の試験を経て、神戸地方裁判所に判事として赴き、次いで明治三十三年神戸區裁判所、民事、刑事兩部長

の文字も残んの選挙氣分を濃厚に染はしてゐた。  
氏は現に本學協議員として、又校友會神戸支部長として育英事業に深く留意する一方、民政黨神戸支部長として黨内に重きをなしてゐる。僅か半時間の對座の間に人を相する元より筆者のよくするところではないが、言はざるに既に對者を包攝して餘さざる温篤の資は筆者の愚にして尙感ぜざるを得ざるものがあつた。夙に氏は京都天龍寺管長高木龍淵師に就いて禪の妙機に觸るるを唯一無二の樂しみとしてゐる由、今後政界に於ても禪の奥意に觸るるやうな政治がして見たいとも漏された。乾坤を合せ呑み、一喝に宇宙の秘義を道破し電光閃裡に永久不滅の眞諦を體する言ふ禪門の妙機こそ筆者は知らね、圓滿無礙の慈願を、その内に秘められつとも、阿吽の機微に閃いて對者を打つ、闢達朗朗たる氣宇さほひしひしと迫つて來るものがあつた。  
擱筆するに當り、貴重なる時間を割いて引見された御好意を深謝し、石禪の「血脈不停」の語の如く層一層の御盡瘁を邦家の爲に切望するものである。

## 懸賞論文審査發表豫告

本誌創刊五周年記念懸賞論文は種種の都合にて審査甚だ延引して居りましたが、既に論文の種別に從ひそれぞれ専門の教授講師に委嘱して目下審査中でありませう。次號には相違無く審査の結果を發表することが出来るであらうことを豫告致します。

### 校友彙報

#### 武田宣英氏學位認可祝賀會

本學校友會東京支部にては去る二月七日、同支部副支部長武田宣英氏に本學に提出した同氏の日本陪審法論に依り法學博士の學位を授與されたるに付支部員相寄り、東京日比谷公園松本樓に於て祝賀會を開催した。因に當日の出席者は左記の通りで極めて盛會であつた。

出席者 武田宣英、横山鉦太郎、山田善之助、後藤徳太郎、作間耕逸、安村竹松、有田秀造、森岡保喜、山口直三郎、古田吉五郎、永田宗太郎、松澤卓規、北山義衛、南莞爾、山本仲次郎、板橋菊松、坂下徳道、玉井秀夫、高橋喬一、藤田和夫、山原是馨、平井正義、加邊力、深谷茂、浦田美太郎、池谷龜太郎、竹村治郎、谷岡登(大阪)、石渡倉藏、岡本四郎九の諸氏。

#### 校友動靜

桑原敦治郎氏(昭二大經) 去る二月一日陸軍經理部幹部候補生として丸龜歩兵第十二聯隊第十中隊へ入營。

嵯峨松太郎氏(大一一專經) 先般朝鮮京城日本生命保險株式會社朝鮮支店に轉勤された。  
 福田龍次郎氏(大一一專法) 從來内務省社會局大阪健康保險署に勤務中の所今回大分健康保險署に轉勤された。  
 中村儀藏氏(明三四法) 今回都合により法律事務所を北區堂島上一丁目二三に移轉された。

植田完治氏(大一一專法) 今般神宅賀壽惠氏事務所にて辯護士事務に従事するることになった。

北本彌一郎氏(大一一專法) 本年一月末日大阪府屬に任せられ府廳に勤務することになった。

岡田清作氏(大一一法) 先般計理士登録となり西成區柳通一丁目に事務所を設けられた。

天野平一氏(大一一商) 來る五月尼崎市市會改選の出馬準備の爲市政團體尼崎自治會を組織された。

玉置轉留男氏(大一一經) 今回夕刊大阪新聞編輯局整理部長に任せられた。

#### 校友住所移動

遠藤常雄(天一一商) 京都市下京區鳥丸通七條下ル東沙小路町大島治三邸方  
 汐月貞一(昭二專經) 北區曾根崎上一丁目六八足立方  
 芝本幸三(天一大法) 住吉區住吉町九三三  
 久田一榮(天二三專法) 天王寺區谷町九丁目三三  
 島岡幾藏(天九法) 福岡市九州帝國大學本部會計課監査掛  
 泊 昶(昭二專法) 港區桂町一丁目一七島方  
 吉田虎長(明三一法) 朝鮮鎮南浦郵便局  
 大橋義策(天四專法) 天王寺區上元宮町六六  
 江村至身(天一二法) 住吉區濱口町一〇  
 桑原敦治郎(昭二大經) 徳島縣名東郡加茂名町島田大西九六  
 嵯峨松太郎(天一一專經) 京城市南大門通二丁目日本生命朝鮮支店  
 露口市太郎(昭二專法) 浪速區榮町二丁目四三山本キマ方

福田龍次郎(天一一專法) 大分市北新町二〇八三  
 佐藤芳太郎(天一一商) 東京市麻布區谷町三八荒木方

中村儀藏(明三四法) 北區堂島上一丁目二三  
 金崎茂雄(明三六法) 東淀川區今里町六七  
 岡田清作(天一一法) 西成區柳通一丁目  
 前川信之助(天四專法) 松江市堅町一〇二常盤生命保險株式會社支店  
 中川賢一(天四專經) 豐能郡岡町櫻通五丁目六八

#### 校友逝去

昭和三年二月十一日  
 東京市四谷區花園町六六  
 昭和自土工業株式會社發起人  
 松本 徹氏  
 大正十三年專門部商業學科出身  
 右訃音に接し謹んで弔意を表す

#### (第一〇頁より續く)

學を、有産階級の玩具品に過ぎない「貴族學」にしたのだ。つまり、地上から天上に昇格せしめたのだ。その結果、小市民的學者が説く社會政策なるものが、深奥らしく見ゆる哲學に裏つけられ、廣汎な世界知識に粉飾せられても、それは却つて無産階級の現實的生活要求と没交渉なる。それは結局、何等の重要さを無産階級解放運動の上にもたなくなる。畢竟、無意味な文字の羅列である。」  
 かくて無産階級の左翼が求むるところは、資本主義社會の根幹を改造し、共產主義社會を徹底的に樹立するにあるやうです。かかる場合、彼等は必らず、「共產黨宣言」の最後の文章を採用し、社會革命以外の如何なる政策も、斷乎として排斥してゐるやうであります。

### 學生彙報

#### 關西大學岡山縣人會 郷土訪問文化講演會

本學專門部學生を以て組織してゐる岡山縣人會員一同は去る一月六日午後五時より岡山深抵小學校講堂に於て郷土訪問文化講演會を開催した。當日は來聽者頗る多く極めて盛會であつた。因に當日のプログラムは左記の通りであつた。

- 一、開會之辭 司會者 佐藤英敏
- 一、新興日本の懺み 法科 阪東宗哉
- 一、懷疑者の叫び 法科 片山全男
- 一、知事公選を論ず 法科 八木正一
- 一、人生・愛・自由 文科 春名平三
- 一、失 法科 片岡觀亮
- 一、農村問題の經濟的考察 法科 川野勳平
- 一、懺める民衆に送る言葉 法科 長谷正事
- 一、失 題 校友 山村利幸平
- 一、郷土を訪れて何を語る 校友 山室茂雄
- 一、失 題 校友 波多野隆助
- 一、司會者挨拶 幹事 佐藤英敏
- 一、失 題 前本大 學教授 高木益郎
- 一、政治に冷酷なる國民の面影を見よ 幹事 北村知己
- 一、失 題 市會議員 有岡幹三郎
- 一、勤王が佐幕が政界革新の行者出でよ 幹事 尾崎信夫
- 一、失 題 岡山縣 會議長 玉重知義
- 一、閉會之辭 本會顧問 角南美貴

# 關西英語聯盟英語雄辯大會

本學學生有志者の加入せる關西全大學専門學  
 校英語聯盟にては去る一月二十八日午後六時  
 より大阪毎日新聞社樓上に於て第二回オラト  
 リカル・コンテストを開催した。當日は聴衆  
 堂に満ち極めて盛會であつた。因に當日のフ  
 ログラムは左記の通りであつた。

## PROGRAMME

Chairman.....Mr. K. Inamura

1. Opening Address..... Mr. Chairman
  2. True Democracy..... Mr. K. Maekawa (Kansai Univ.)
  3. The Defects of the Present-Day Education..... Mr. Y. Hayashibara (Third High School)
  4. The Auspicious Showa Era..... Mr. K. Yamaguchi (Kansai Gakuin Univ.)
  5. Peace..... Mr. T. Tsujita (Matsuyama H.C.S.)
  6. The Hell of Examination..... Mr. A. Mitsuda (Osaka H.C.S.)
  6. The Problems of the Pacific..... Mr. T. Yamada (Nagoya H.C.S.)
  8. Unite, All the Proletariats..... Mr. S. Tokuda (Doshisha H.C.S.)
  9. The Spiritual Foundation of World Peace..... Mr. M. Noi (Doshisha Univ.)
  10. International Justice & China..... Mr. B. Take (Kobe H.C.S.)
- (II)
1. Return of the Trophy..... Doshisha Univ.
  2. The Restoration of Showa..... Mr. T. Yamaguchi (Kansai Univ.)
  3. The True Peace will Come..... Mr. K. Tokugawa (Third High School)
  4. Man Determines History..... Mr. Y. Kuwahara (Kansai Gakuin)
  5. Friendship Mr. S. Noma (Osaka H.C.S.)
  6. Happiness & Life..... Mr. J. Hashimoto (Nagoya H.C.S.)
  7. Faith..... Mr. K. Murata (Doshisha H.C.S.)
  8. Ideal Government & the Soul of Our Nation..... Mr. S. Kato (Doshisha Univ.)
  9. Have We the Right to Live..... Mr. K. Miyamoto (Kobe H.C.S.)
  10. String Quartette..... Osaka Musical Academy
  11. Decision of Judges
  12. Presentation of Prizes
  13. Closing Words..... Mr. Chairman

## 學生寄稿

### 經濟學に於ける對立的觀點

エヌ・ブハーリン  
 芳尾 一 夫譯

#### 一 歴史的觀點と非歴史的觀點

『剩餘價值學說』に於てマルクスは重農學派の人々に就て記述してゐた。『彼等が、此等の形態に註し即ち資本主義的生産方法の諸形態』を、社會の生理學的形態なりとして、意志、政治等から獨立してゐる生産自體の自然必然性から生れた形態として、把握したと言ふ事は、彼等の偉大な功績であつた。具體的な諸法則が存在してゐる。重農主義者達の缺點は、唯一つ、一定の歴史的社會階級の具體的法則が、抽象的な、凡ゆる社會形態を等しく支配する法則として解釋せられてゐると言ふ事である。』

此處で、單に社會的な觀點と歴史的社會的なそれらの相違が甚だよく明かにされてゐる。『全體としての社會的經濟』は考察せられ得るにしても、特殊な歴史的に成生せる社會形態の全意義は把握せられ得ない。勿論、近代に於ては社會的諸關連の理會の缺陷が、又非歴史的觀點と手に手を取つて進行するのを常としてゐる。が然し、此等双方の方法論的問題の區別を附けなければならぬ、と云ふのは『客觀主義』の可能性は、諸問題が歴史的に陳述せられる事の諸左を未だ少しも與へないから、重農主義者達がそのための一例を供してゐる。近代の經濟文獻の中で、ツガン、バラノウスキーに於てその例が繰返されてゐるが、彼の『社會分配論』は階級より建立せられた各社會に適合する。〔そして其爲めに一般に何物をも説明してゐない〕。

マルクスは、彼の經濟學說の歴史的性質並にその法則の相對性を嚴として高揚してゐる。『彼の考へによれば……、各歴史的時期はそれ特有の法則を持つてゐる。……生命が、一定の發展期を經過し終つたならば、一定の段階から他のそれに歩を踏み入れたならば、直ちにそれは又他の諸法則で導かれ始める。』それからして、マルクスが、各種の發展段階に於ける社會的生活の道行を導く所の、各の普遍的諸法則の存在を拒否したと言ふことには勿論ならない。唯物主義的歴史理論は、例へば社會的發展の說明にのみ適應する所の法則を定立する。然し之は、社會學的諸法則に對立して、一定の或る社會的構造の本質、即ち資本主義的社會のそれを言表する所の、經濟學の特種な歴史的諸法則を除外するのではない。

此處で吾等は、多分挙げられるであらう非難を前以つて避けやうと思ふ。即ち、歴史的原則の承認が不可避的に、理論的象形的な純粹記號的な型に、即ち所謂『歴史學派』の代辨する同一の觀點にこそ、導くと言ふ事が云爲せられ得るであらう。然し、そんな種類の非難は各種の事物の混同を意味してゐる。吾等は、假りに統計學の如き全然象形的科學の何等かの一般の命題を取るとすれば、人口統計學は次ぎの『經驗的法則』を定立する。幼女出生者一〇〇人に男子出生者一〇五乃至一〇八人が相當する。此『法則』は一ヶの純粹記號的性質を有するが、全く何等の一般の因果關係を表明してゐない。それと正反對に、經濟學の理論的法則は因果率の圖式の中に運び込まれる。甲、乙、丙が存在して居れば、丁も亦入場せねばならぬ。換言すれば、一定の諸條件の、『諸原因』の存在は、一定の結果の入場を伴ふ。此等の『條件』が又歴史的性質を有し得る事、即ちそれ等が事實には一定の時にのみ入場する事は明かである。純粹に論理的な觀點からは、此等の條件が何處で、何時現れるかは全く考へられぬ、況んやそれ等一般が入場す

るや否やは猶更の事だ。吾等は『永遠の諸法則』を此の意味に於て取扱はねばならぬ。他方それ等は、具體的に現はれる以上『歴史的法則』である、何故ならば其等は、一定の歴史的發展段階に於て、專ら現はれる所の『諸條件』に關連してゐるから。然し今一度此等の條件が存在して居れば、從つてそれ等の結果も亦存してゐる。理論的經濟法則の此特質こそが、社會的發展が既に相應の高度に到達した所の、諸國並に時代に對して其適用を可能ならしめる。だから、例へばロシアのマルクス主義者達は『ロシアに於ける資本主義の運命』を正しく豫言する事が出來た、マルクスの分析は英國に關連せる具體的な經驗的材料に依つてゐたのである。斯様に經濟學の諸法則の『歴史的』特質は、未だ決して之を變じて象形型的科學に爲ない。他方、然し、此分野に有つては唯歴史的觀點のみが認識に値ひするものたり得る。

科學としての經濟學は商品社會並に資本主義的商會社會のみを對象として持ち得るのである。吾等が、何等かの様式で組織せられた經濟、例へばロッドヘルツスの家族一經濟、乃至は原始共產主義的社會、封建的土地財產、又は社會主義的『國家』の組織的な社會化せられた經濟を取扱はねばならぬだらうならば、吾等は、其解答が理論的經濟學の任務の限界内に入り來る所の、唯一つの問題をも其處に見出さないうであらう。此等の問題は商品經濟、特に其資本主義的形態に關係してゐる。斯くて價值、價格、資本、利潤、危機の諸問題等。之は確に偶然ではない。現在こそ『自由競争』制度の多少明白な支配に於ては、經濟過程の主要な特質が特に明瞭に表現せられてゐるのであるが、其場合個人の意志と目的は社會的諸現象の客觀的に落着する鎖に對して全く後背地に入る。商品生産としての商品生産及び其最高形態たる資本主義的生產のみに取つて特徴たるものは、マルクスが『商

品の偶像的特質』と呼稱し、そして『資本論』に於て立派に分析したあの現象なのである。

生産過程内での人間自身の人格的關係が、此處でこそ事物の非人格的關係となるのであるが、此等が其處では價值なる『社會的象形文字』の形態（マルクス）を取る。之、資本主義的生産様式に固着して『謎の様な』特質及び此處で初めて理論的考究のために出現する諸問題の獨特性の由來する所以である。『經濟的自由の典型的特質』のためにではなく、寧ろ最大多數の理論的謎と、それを等々解明する上での最大の困難を、伴ふ競争制度の認識、理論的特種性のために、『資本主義的社會的分析は特種な意味を供し、且つ近代社會の主要生活の合法則性を検討して、人間の意識から獨立してゐる所の諸法則を、『家屋が頭上で顛覆する場合の重量の法則とよく似た一現定的な自然法則を』一一定立する所の經濟科學に或る特別な論理的形態を賦與する。

最も錯雜せる諸關係の成果たる此の主要な特質自らは、商品生産としての商品生産にのみ到來する所の一箇の歴史的現象なのである。無組織の社會的經濟のみが斯る特種な諸現象を成熟させるのだが、其場合に於て『生産組織』の各種の部分の相互的適應は、意識してそれに向けられた人間の意志から獨立的に結果する。

社會的經濟的計畫的經營の場合、社會的生產諸力の分配並に再分配は、意識的な、統計的報告に足を置いてゐる過程を表示する。現在の生産の無政府状態に於ては、此過程は、價格の全傳波組織を通じて、其の下落と騰貴を通じて、利潤に對する其の壓迫を通じて、危機の全系列を通じて等等、一言にして言へば、全體の意識的計算に依つてではなく、寧ろ社會—經濟的諸現象の全系列の中に—その中特に市場價格に於て—現れる所の、社會的要素の盲目的な力を通じて、行はれてゐる、之が總て近代的社會の特徴であり、且つ之が經濟學の

對象をなしてゐる。社會主義的社會に有つては、經濟學は其の存在理由を失ふであらう。唯『經濟地理學』—象形學的科學と規範科學たる經濟的政治學のみが残存するであらう。と云ふのは、人間間の諸關係が單純且つ明瞭であるだらう、此等の關係の拜物教化せられた物的表現は崩壊して、主要生活の諸の合法則性に代つて、社會の、意識的行爲の合法則性が姿を表すだらうからである。そ



岡山縣人會郷土訪問文化講演會記念撮影

れのみから既に明かになる事は、資本主義的研究に於て資本主義的『生産組織』を各各の他のそれ等から區別する所の根本的特徴が觀察せられねばならぬと言ふ事である。何故ならば資本主義の研究こそは、資本主義を他の各社會的構造から區別するもの研究であるから、吾等が資本主義の典型的な特種性を放棄すれば直ちに、凡ゆる可能的な社會的生產關係に使用せられ得るだらう所の、從

つて『近代資本主義』の歴史的に規定せられた、全く獨特的發展過程を説明し得ないだらう所の、普遍的な諸範疇に到達する。此の根本命題の忘却こそ—マルクスは言ふ—『現存する社會的關係の永遠性と調和を證明する近代經濟學者達の全學識が……横つてゐる。其場合、資本主義が商品生産の發展せる形態なる事に注目しなければならぬ。其は單に交換に依つてではなく、寧ろ資本主義的な交換に依つて特徴付けられてゐる。此處で、勞働力が商品として市場に顯れ、そして諸の生産關係（社會的經濟的構造）は、商品生産者間の關係のみならず、寧ろ又資本家達の階級と賃銀勞働者達の間の其をも包含してゐる。其故に資本主義の分析は、商品經濟の一般的諸條件の吟味（此等の要素の存在だけが單純な商品生産の學識に相應するだらう。）以外に、猶資本主義の特種な構造自體研究を必要とする。諸問題が斯く定立せられるや、始めて眞に科學的な經濟理論が興へられ得る。資本主義的諸關係の讚美と永久化を志さず、寧ろ之を理論的に研究せんとせば、其典型的な諸の固有性を高揚し、且つ分析しなければならぬ。マルクスこそはそう行動してゐる。

彼は其『資本論』を次ぎの言葉で序説してゐる。『資本主義的生產様式が支配權を握つてゐる所の社會の富は、一箇の『でつかい、商品の集積』として其個個の商品は、其要素的形態として顯現する。だから、吾等の研究は商品の分析を以つて始まる。』とされば、端緒から、研究は歴史的な軌道の上に持ち來たされてゐる。其に従ふマルクスの分析は、今や全部の根底的な經濟上の諸概念が一箇の歴史的性質を持つてゐると云ふ事を示してゐる。『勞働生産物は—マルクスは價值に就て記述してゐる—總ての社會的、状態に於て消費對象である、然し消費物の生産に支拂はれた勞働を其の『對象的』特質として、即ち其の價值として表現する所の、歴史的に規定せられた發展期が勞働生産物を商品に變

化するのである。』マルクスは同じ事を資本に就ても言つてゐる。『資本とは決して物ではなくて、寧ろ或る物に依つて現はされ且つ此の物に或特種な社會的性質を與へる所の、規定された、社會的な、一定の歴史的社會編制に屬してゐる生産關係なのである。資本とは、物質的なそして生産せられた生産手段の分量ではない。資本、其は資本に變化された生産手段であるが、之が向自的に全く資本ではないのは、恰も金乃至は銀が向自的に貨幣でないのと同様である。』

其は、ボエム・パウエルクが資本に與へた定義を比較する事は興味深い。『吾等は財の獲得手段として役立つ所の生産物の合計を一般に資本と命名する。此の一般的な資本概念からより狭い概念として社會的資本のそれが分離する。吾等は、社會、經濟的財の獲得手段として役立つ所の生産物の合計を、或ひは……簡單に解して中間生産物の合計を、社會的資本と命名する。』

だから、吾等は此處で出立點の完全な對立を取扱はなければならぬ。マルクスが一定の範疇の歴史的性質をも主要特徴として擧げてゐる場合、吾等はボエム・パウエルクに於て歴史的な要素の放棄を見る。マルクスに於て歴史的に規定せられた人間間の諸關係が問題である場合、ボエムに於ては人間の物に對する關係の一般的諸形態が現れてくる。實際人間相互の歴史的に變化する諸關係のみは、放棄せられ勝ちであるが、其時残るものは、人間と自然との間に存する諸關係だけである。換言すれば、社會的—歴史的な諸範疇に『自然的』諸範疇が代るのである。然も猶明かな事は、ストルツマンが充分正しく注意してゐる様に『自然的』諸範疇は經濟現象の成立のための技術的可能性のみを與へるのである』から、『自然的』諸範疇は少しも社會的—歴史的諸範疇を説明し得るものでな



い云ふ事である。

そして實際は労働過程、財の生産と分配の過程は、獨り一定の社會的—經濟的諸現象を呼び出す所の一定の歴史的に相異なる形態に於て、經過する。『オペルスト・トルレンズ』並にボエム・パウエルも亦やつた様に、『原始人の石ころの中に—資本の萌芽を』そして原始人の中に—資本家を、見るならば、それは全然維持不可能な觀點である。商品生産の基礎の上に生産手段が、財産として唯一の階級に獨占せられ、而も労働者の財産に唯一の彼の所有に依然屬してゐる商品—労働力—に對置せられる時初めて、其時初めて、資本と命名せられてゐる特種な現象が成立し、從つてその時初めて『資本家等の利潤』も亦成立し得るのである。同一の事は地代にも妥當する。各種の地面のみに於ける種々の土地收獲高の事實は又は、有名な公式が言つてゐる様に『遞減的土地收獲高の法則』は、決して（其が最も極端なマルサス主義者等の代辯してゐる形態で存在してゐる時でも）地代の現象を惹き起さないだらう。其は、商品生産の基礎の上に、土地が財産として地主階級に依つて獨占せられる時に、初めて成立する。種種の地面の收獲高の相違と上述せる『法則』に關しては、それ等が其社會的現象、即ち地代を一般に始めて可能ならしめてゐる事に於て、それ等は單に技術的諸條件の役割を演ずる。其故にボエムの、多くの彼の批評家に就ての不平は何等根據を有してゐないのだが、彼は、彼等が『事實の本質』をその『現象形態』から區別しないといふことを非難してゐる。資本の本質は、其が『中間生産物の合計』である（然も其が生産手段の『本質』だ）といふ事にはなく、寧ろ他の諸時代には全然未知のものたるに終始する經濟的諸現象の一系列の結果として持つ所の、特種な社會的關係を其が表現してゐると云ふ事に、存するのである。資本は現在の社會に於ける生産手段の一現象形態であるといふ事は勿論言ひ

得るが、然し近代の資本は卒直に資本の現象形態であり、且つ後者は生産手段と同一の意義を有するといふ事は主張するを許されない。

價值現象も亦或る歴史的特質を持つてゐる。塊た利學派の個人主義的方法をこそ正しいと認めて、主觀的價值から、即ち個人の個人的價值評價から卒直に價值を導出せんとするならば、此場合にも亦、近代經濟に於ては生産者の心理が、自然經濟に於ける生産者のそれとは（そして『特に細流の附近にゐる』人々、乃至は荒野で饑餓に苦しんでゐる人々の心理とは）全く別な内容を持つてゐると云ふ事情が斟酌せられねばならぬ。近代の資本家は、彼が産業資本の代辯者であらうと乃至は商業資本のそれであらうと等しく、生産物の使用價值には完全に關心を持つてゐない。彼は専ら利潤のために施肥せられた『働き手』の助ける借りて『労働する』彼の關心は單に交換價值である。

其から明らかになる事は、財が何等かの人間の欲求を充足すると云ふ凡ゆる時代と民族に共通的な事情で以つては、經濟學の根本的現象、即ち價值現象こそは説明せられ得ぬといふ事である。だが之が塊地利學派の『方法』なのである。

斯くて塊地利學派は資本主義の特種性を放棄する事に於て甚だ誤れる方法論的方法を取つてゐる、と言ふ結論に吾等は到達する。社會—經濟的諸關係を、即ち人間々の諸關係を説明せんと欲する所の經濟學は、一々の歴史的科學でなければならぬ。

『フオイエランドの經濟學』を—エンゲルスが適當にだが厭味たつぷりと述べてゐる—今日の英國のそれと同一な法則下に持ち來らんと欲した人は總て、恐らくは其で甚だ俗悪な平凡より他の何物をも擱び出さないであらう。此等の『平凡』は多少機智に充ちた基礎の上に建立せられ得るだらうが、之は資本主義的社會秩序の豫め除去せられた特種性を説明する事は出來ない。されば、ボエム・パウエルが『建立し』てして其『法則』を彼が研究

してゐる所の假說的『經濟』は、それでは測られ得ぬ程に、吾等の罪深き現實からかけ離れてゐる。之は新傾向の創造者等にも多少意識に昇つてゐる。だから、例へばボエム・パウエルは其『資本』の最近版に於て記述してゐる。『特に私は喜んで一箇の間隙を充たしたであらう……所謂『社會的範疇』の勢力は、そして諸諸の社會的制度から分派する權力關係と強力關係は……何を意味し何を

開西英語聯盟英語雄辯大會



寧ろ其中に、外的な經濟學の彼岸に存する偉大なものを見るからである、といふ事だ。

ボエムに對立させて、吾等が此處で繰返して主張して來た所の『社會—有機的』方法の代辯者の一人たるストルツマンは言つてゐる。『客觀主義』はそれと共に新階段に歩を入れる、それは社會的となるばかりでなく寧ろ『歴史的』となる。體系的—論理的的研究と歴史的—具體的研究の間には最早や何等の淵も残つてゐない。兩者に取つて労働分野が共通となる、其等は共に歴史的現實の認識を對象として持つ。然乍ら、抽象的な古典的方法を『客觀主義』及び『歴史主義』に持合せんとする此課題は、ストルツマンより少し前に、既にそして凡ゆる倫理的線附けもなく、カール・マルクスに依つて解決された。

### 一 生産の視角と消費の視角

『近代的生産様式の最初の理論的取扱は—マルクスは書いてゐる……必ず流通過程の聲相的現象から出發する……近代經濟學なる具體的科學は、理論的觀察が流通過程から生産過程へ過渡する場合に、初めて端緒を開く。』それと反對にボエム・パウエルと全塊地利學派は消費を其分析の出發點とする。

マルクスは社會を特に『生産組織』として、且つ經濟を『生産過程』として觀察してゐるけれども、ボエム・パウエルに於ては生産は全く後背地に足を踏み入れる。前者に代つて、彼に於ては、消費並に經濟主體の欲求と願望の分析が位置する。されば、分析の出發點となるものは、生産物としての經濟財ではなく、寧ろ（アプリアリ）に與へられたその分量、それが突然奈邊より來たのであるかに就ては何人も知らない所の『貯藏品』であるといふ事は不思議がるまでもない。それと共に、更に全價值説も亦理論的體系の中心點として豫定せら

れる。生産因子が初めから取去られてゐる以上、凡ゆる生産の外部に横つてゐる或價值説が成立しなればならぬ事は明かである。『分離的抽象方法』の特種な適用も亦それと關連してゐる。だからボエム・パウエルは、價値の分析をするに當つて彼のロビンソンをして何等の財を生産せしめず、寧ろ其を紛失又は『斷念』せしめる。其場合、生産の又は再生産の可能性は、特に分析されねばならない現象としてではなく、寧ろ困難を増す要素として觀察せられてゐる。其故に、唯合理的な事は『功用』が、後でそれから主觀的な其以上更に客觀的な價値概念が導出せられる所の、塊太利學派の基礎概念となる言ふ事だ。功用なる概念は決して何等かの『勞働消費』乃至は生産をも前提してゐるのではない。それは事物に對する何等能動的な關係を表現してゐるのではなく、寧ろ純粹に受動的な關係を、何等『對象的活動』ではなく、寧ろ一箇の不變な既與物に對する一定の關係を表してゐる。だから此の功用なる概念が又有効に適用せられ得るのは、無人島上の『難破船の乗組員』並に『行先短き人々』饑餓に苦しんでゐる『旅人』及び教授の幻想より生れた其に酷似してゐる幽霊が、行為者と顯現する如き諸の例に於てである。

然共、斯る觀點が最初から社會的現象並に其發展を把握する各各の可能性を除外する事は明かである。此等の起動力は、諸の生産力と、社會的勞働の生産性との膨脹、社會の生産的機能の擴張である。消費なくして生産は決して存在しない。之は何等疑問の餘地がない。諸欲求が、常に各の經濟的活動の運動の原因を構成する。然し他面では、生産が又消費に最も決定的に影響を及ぼす。マルクスに從へば、此の勢力は三つの様式で影響する。第一に生産が消費のための材料を創造する事に於て、第二に其がその様式、即ち質的性質を規定する事に於て、そして最後に第三に、其が新しい諸欲求を創造する事に於て。

吾等が生産と消費との交互關係を、一般的に、即ち規定せられた、歴史的に與へられた構造に何等關係せず、觀察する場合、事態は斯くの如くである。然らず資本主義の觀察に當つて、更に一つ重大要素が加はる、そしてマルクスの言を以つてすれば、『……社會的欲求』即ち需要の原則を支配する所のものは各種の階級相互の關係と其各經濟的地位に依つて、即ち斯くて第一に總剩餘價値の勞賃に對する關係と、第二に剩餘價値がそれ等に分割せられる所の各種部分の（利潤、利子、地代、租稅等）の關係に依つて各本質的に條件附けられてゐる。』だが諸階級相互の此の關係は更に生産力の膨脹の勢力下に形成變化せられる。されば吾等は、第一に見る。諸欲求の動力學は生産の動力學に依つて規定せられてゐる事を。それから第一に結果する事は、欲求の動力學の分析に於ける出發點は生産の動力學でなければならぬ。第二に、生産に於ける靜力學を前提する所の生産物の既與量は、消費に於ける靜力學をも、換言すれば、經濟的なもの、それ故に更に卒直に生活の總體に於ける靜力學をも前提する。

『生産諸力の發展』をこそマルクスは第一に述べた。だが彼の全巨大な理論的勞作の目的は、彼自身の言葉によれば『近代社會の經濟的運動法則を曝露する事』であつた。然し、一般に何等運動の存在しない場合に、若干量の生産物が『蒼天から』落下する場合に『運動法則』を曝露する事は可なり困難である。それ故に、塊太利學派の體系の根底に存する所の消費の觀點が、社會的動力學に關する全問題、即ち經濟學の最も重要な問題に於ては全然保持し難いものとして自らを證明する云ふ事は初めから認容され得る。『如何に技術が資本主義的社會に有つて發展するか』キアラソフは言ふ『資本主義的利潤はその源を何處に發するか』彼等（註）即ち塊太利學派の代辯者等』は此等の總ての問題を正しく陳述する事は出来ない、況んや

解答する事に於ておや。』此の點で限界効用説の最も熱烈な代辯者の一人たるヨゼフ・シュムペーターの白狀は興味がある。彼は、發展が問題となる總ての場合には塊太利學派は何物をも云爲し得ないと言ふ事を、勇氣を振つて卒直に述べた。『斯様にして吾等は、吾等の靜力學的體系が、彼は言ふ以上總ての經濟的諸現象を、例へば利子並に企業利潤を説明し得ない云ふ事を知る。』

『……雖然基礎附けられてゐる限りでの吾等の理論は、近代經濟生活の最重要な諸現象に對しては用をなさない。』

『更に發展の觀點からのみ理會せられる……所の各各の現象に對してそれは用をなさない。それに屬するものは、資本構成及び其他の問題、特に經濟的進歩並に恐慌の問題である。』

されば町人的學者等の最新の理論が、現在の最も緊急重大な根本問題に於て全く用を果さない事は明かである。巨大且つ急激な資本の集積、其の集中と凝集、甚だ急激な技術的進歩、最後に、産業危機の規則的な回歸——社會的——經濟的な制度を根底迄動搖させる此の特別な資本主義的現象——此等總てはシュムペーターの白狀に依れば『一ケの神秘』である。そして、學者的ブルジョアジー等の思惟が其處で停止する限界に於てこそ、マルクスの理論は、多くを、マルクスの理論の不充分な部分にマルクス主義の最も憤激せる仇敵に於て歴智識の最終の言葉として妥當する程にしかく多くを、貢獻してゐる。

今迄、吾等は塊太利學派の三つの誤れる出發點を、主觀主義、非歴史的觀的並に消費の觀點を、討究した。ブルジョア——金利生活者の三つの心理的根本特質と關連してゐる此等三つの論理的出發點は、塊太利學派の理論の三つの根本的誤謬を伴ふが、それ等は一般的な理論的『體系』の各種の部分

にあつて不斷に繰返してゐる。主觀主義的方法と關連してゐる『誤謬に充ちた團』である。更に資本主義の特種な歴史的諸形態を説明し得ない事、其はその根拠を非歴史的觀點に持つてゐる、そして最後に經濟的發展の全體的問題に於ける完全な破産——消費の觀點と必然的に關連してゐる破産だ。だが、此等の『動機』全部が相互に獨立的に作用してゐると考へるのは誤りだらう。心理的合成物ばかりでなく論理的なそれも亦複雑化せられた大いさを表徴してゐるが、その中で各種の要素が様様に結合し融和し、其場合それ等の作用が他の隨伴的諸要素に應じてゐる時はヨリ強く、又或る時はヨリ弱く外部へ向つて表現する。

それ故にボエム・パウエルの理論の更に進んだ分析に於て明にせられる所の、各の具體的な錯誤は、金利生活者の、新理論家の『一思考動機』にはかりでなく、寧ろヨリ多数のものに同時に基くならう。然らず之は、關連してゐる諸要素の系列から、其の各種の組合せに於てボエム・パウエルの無數の『失錯』の源泉をなす所の、三つの根本要素を高揚する事を妨げるものではない。此等の『失錯』が、理論的思惟に對する從來のブルジョアジーの全無能を同時に證明してゐる。

附記 本稿は N. Bucharin 著 Politischen Ökonomie des Renners 中の數章の譯であつて本誌第五十號所載の『經濟學に於ける主觀主義と客觀主義』に續くものである。

第五〇號掲載分正誤表

頁數	誤	正
一九	觀察してゐるけれども	（觀察してゐる）けれども
二〇	規定法則が導く所の一箇の自然史的	規定する法則が導く所の一箇の自然史的
二〇	自身共鳴して	自身と共鳴して
二〇	此場合同一の立脚點が、以前の根底を取つて極めて快く甚だ注意深く公式化せられてゐる	此場合凡ゆる經濟學者中の『最大のチア』が當つて極めて注意深く公式化してゐる

二〇三 関連を放棄して、  
二五一 しなげればならぬ。  
文学的 文字的

### 高文受験記

法文学部 破風之助

私が受験準備中常に不便不安を感じた事は、何を標準にして進むべきや、如何なる程度にまで考へ到れば、合格可能なりやの點であつた。我々は千里山學報といふ好固な機關紙を持ちながら、先輩の是に關する言をきく事が出来ないで、徒に、無責任な雑誌の記事、無責任な先輩の漫言に迷はされて、無用なエネルギーを浪費するといふ有様であつたが、今後此の種の記事に幾分から眞を割愛されるに至つて同輩の士が如何に心強い旅伴者と適當なる刺戟とを得ることが出来るだらうかを思ふ時、誠によろこびにたへない。

準備の方針は人の環境によつてそれと異なる。私の環境はあまり煩雜でない一人前の事務を執つた傍の勉學であつたので、學部在學中の殆ど全部の方は最も完全に實行し得ると思ひますが、専門部在學中の一部份には少し餘分の努力を要求しないといふ、實行出来ないかも知れません。併しそれは單に外形からの言に過ぎない、最重要な支配を決する頭腦の形式——それを形づくるもの即ち眞摯なる努力の量如何によつては、月隨の差異の生じうることを斷言して置きます。

年齒十七、中學校卒業の際に臨んで思想上の大革命に出會した私は今から思ふと最も危険であり、且同時に最も尊かつた二ヶ年が程、殆ど無言の行といつてよい生活を送つた、そして今から三年前漂然と私の姿は福島校舎の隅つこに黙々とアテもなく法律學のノートをとつて居た。

今その頃の日記帳を出して見るに全く今昔の感が

ある、私が高文といふ制度の存立を知つたのが、それから一年も後のことであり、受けて見やうかなと思つたのは更に一年も後のことであり、受けて見やうと決心したのは更に下つて福島校舎の生活も残り少なくなつた三年の二期の頃であつた。従つて私の準備期といふものは十月に始つて八月に終つた十一ヶ月間である。その間事務も執り登校も怠らなかつたのでなか／＼時間は作れなかつたが人間の心持は妙なもので、やはり可成な時間を發見した。私はその頃から一定の表を作つておいて二十分毎に勉強時間を記入した、二時間の日、五時間の日、十時間の日、十八時間の日、勉強しないことをモットーとして得意になつて居た私が勉強すること自體に絶對な價値を發見したのもその頃だつた。併し研究自體の絶對的價値よりも受験準備生である私には是非ともその相對的價値の把握がより必要だつた、併し何等の標準を持たぬ私には只不安と焦燥を感じざるばかりで、當さへつかない、おまけに若槻内閣の改正案は昭和二年度には實施されないうきまつて破産法の準備が臺なしになる、二月には卒業試験、三月は事務の方がとても忙しくて時間は作れぬ、健康さへあやしくなるで四月には断念さへ懸念されたがいゝんな刺戟やら意地にかくれて五月から猛然と進んだ。

今度は學校に出席しなくてもいゝのでズツと勉強時間が増して來た。五月、六月、七月、八月ふりかへると一寸滑稽な感がある、でもその頃は一生懸命だつたからかはいゝ。無鐵砲にはやつたものの此の頃にはかなり自惚も出來た。八月の中頃から健康を害して勉強時間を半減するの已むる得ざる必要に迫られたが別にあせりはなかつた、只初めの試み……といふ甘い不安さおさへがたい希望に只管頭腦の整理に餘念もなかつた、私は次に五項目に分けて私の體験を誌さう。

#### 1 參考書

參考書の選擇は可成り重大な問題である。是については世の定評があるやうだ、かく多くを語る必要はなからうが、學說には公法をを通じて一定の傾向があるから一つの科目で右系をされば他の科目においてもその系統のものを選ぶ必要がある。異説を十分に理解しておく必要はあるが定評ある書物なりその書物の中に書いてある程度の理解で十分である。又試験には實際上學說は重大視されて居ないやうである。

中途で參考書を變更することは大變にわるい。此の點は憲法と刑法でウンと苦い經驗を嘗めた私が聲を張つて主張しておきたい點である。何等の概念も形成されない間なら別論であるが苟も多少でもやりかけた參考書である以上徹底的にやつてしまつて然る後その説意に合はずと感ずれば他に轉ずべきである。

次にノートの問題であるが是は勞少くして効多きを望む士の須く刮眼せざるべからざる點であらう。此の點については烏賀陽博士の言を、そのまま借用しておく「ノートを十二分に理解すれば國家試験は大手を振つて通れる」少くとも筆記試験は。例外的ノートを別として。ノートに關しては直接今度の試験には役立たなかつたが、武田師、烏賀陽師の商法、古川師の民訴等の賜物には深く謝さなくてはならない。参考に私の選んだ書を列記せば

- 憲法(美濃部)、民法(鳩山、穗積)、商法(松本)、刑法(牧野)、民訴(板倉)、刑訴(小野)、國私(山田)、經濟(河津)
- 尙一試験委員の著書に親しむ必要毫もなし
- 2 右主要參考書を精讀するために他の參考書を一讀する亦良策なり。

#### 2 勉強方法

勉強方法に二通りあらう筈もなく學問に王道なしとは今日においても眞理であるが他の意味に於て

私は一言したい。

先づ時間であるが一人前の勤務しての餘暇にといふ人であれば、八時間以上は無理であらうが、何さかして最後の五六ヶ月は一日八時間位はがんばつてほしいものである。普通の人なれば少くとも十一二時間は作れやう、私は一人前の勤務はして居たがズツと十時間平均の時間を作り出した。勤務中の餘程零細な時間をも盜む必要は已むを得ない。

次に私が氣をつけた點はすべて大局に通ずるといふことである。よく受験生にして「何回よんでも又新しい」といふ嘆息を洩らす方が多いやうであり自分もそれを體驗して大いに自分の頭腦を疑つて見たこともあつたが、これは局部に注意をさらされて大局を忘れての勉強の弊ではないかと思はれる、研究の當然の順序として先づ大局をつかんで然る後局部に入るべきは何人も知つて居ることであるのに事實はさうでない。此の意味において前述ノート禮讀の辭はこゝに適用さるべく世間でよく言ふサブノート作りも一つの手段であり、委員先輩の否定する便覽式勉強法も利用すべきものなるのである。便覽は信憑すべからざることは事實であるが大いに利用してやるべき小才子である第三に勉強方法としてのサブノートに一言すべきは前述大局に通ずる手段としてのサブノートも一利あるが問題解答集とも稱すべき意味のサブノートの必要であることである。近頃の問題は大抵既出の問題のみといつてもよいやうな傾向があり事實上我が過去の問題を精密に解答する時、重要問題は全部盡されて居るといふ事實に逢着する。

従つて過去の問題を自ら解いて見るといふことは精確な知識を得るといふ意味においても問題の傾向、即ち心核を掴むといふ意味においても知識を整理するといふ意味においても、十二分な價値のある努力であると信ずる。併し一書書いて居てはこゝも時間經濟上之を許さない。私は一科目約百

二三十題(民商法は三倍)の問題を抜いて半紙型西洋紙三十枚位に大きな文字で書きあげた。それも殆ど讀書するに同じ位のスピードで——二十日ばかりの間に全科目を終つた次第で、今少し詳しいものならより好いこと請合である。

眼光紙背に徹する精讀が法律學研究にも不可缺であること始終「何故に?」といふ疑問を持つて讀むと同時に自己の選んだ書物に絶對な信頼を置いて居るといふことの必要なことは今更までもない。批判的研究は少くとも四五年も先のことである勉強方法としての項目に私は最後に孤獨なれと言張しておきたい。良友はいくらあつても實にないが世の中に良友は珍しい。諺にもある「眞の意味の孤獨は人格と思索を陶冶す」眞の孤獨を知らないものは星座を仰いで號泣して見るが、だがこれは私獨の孤獨主義である、孤獨なるが故に他を排せといふのではない、綿綿たる友愛こそ人間を作る第一要素でなくてはならない。只之を表現するに世間にあつた方法を以てしてはならない。三年間同窓の諸氏に嘗つて餘談を交へなかつた私は而も尙友を愛するの念において何人にも譲らなむと揚言する。脈脈たる人間熱愛の衝動こそ此の孤獨主義者の生命なれ。

3 健 康

二年前甲種合格を宣せられた私が特に健康の二字を書いた裏面には何か深い體驗があるだらうことを想像していただきたい、健康なるかな。健康を措いて健全なる精神はない、健全なる努力はない、健全なる成功はあり得ない。

健康に密接なる關係に立つ原因の中で私は特に過勞について書きたい。殊に職業を持つて傍ら勉學の途にある方々にとつて此の問題は共通な且重大な問題である、職業難の今日さう職業選擇に我儘は言へない。かなりはげしい職を持ち而も一人前の重荷である、試験への躍進を試みるには數の勢

として精神肉體の過勞となるのは已むを得ないことである、それを思ふに實に悲惨だ、さげがたい事として天下幾萬の青年が尊い健康を犠牲にしつつ尙キセルシユアアの旗をかざして猛進する様は一種悲愴な光景である、闘ふこと自體に感ずる享樂はさておき高文パス位に健康の幾分でも犠牲にすることは考へものである、我我は全生命をなげ込んで試みなくてはならない、創造への過激であるを忘れてはならないのだ。健康保持の方法と程度は各人によつて異らう、私は只健康の大切にすべきであることを高調して置くに止めるが、此の言たるや所謂親の子に對する師の子弟に對するが如き習癖的抽象的概念遊戯ではなくして、痛切な體驗から迸り出た高價な叫であることに想到していただきたい。

4 試 験 場

何といつても二千の學生が殺到する國家最高の試験である油断は出来ないが試験にのまれないことが先づ肝要である。それぞれのグループをつくつていろんな評定でやかましいものだが聞いて居るさ大して色の抜けた奴は居ないものである。二千の中先づ準備の出來て居るさうなのは五六百に過ぎないことを斷言してはばかるまい。筆記試験に通つたものの中にも随分ヨタが多いやうに見受けたが、あれで國家最高の試験合格者として社會に送り出されるんだが國家試験の權威が地を拂はなければ幸であることへ思ふ。

筆記試験場には参考書を持つて入れる。最後の五分間まで本を見て居てよく極めて寛大なものである、机の上には六法全書の新しいの普通の郵紙が十五枚二本の紙ヨリと一緒にかしまつて居る郵紙は十一行だが大抵各一間につき隔行七八枚かくやうである、私は書きなぐりたい性質があるので毎行書いて二十五字で一問七枚乃至十枚といふ見當であつた。概して筆記試験にはいくらでも

書けるやうな問題が多い決してビクツク必要はない。口述試験は一人十分乃至二十分見當で一人一人引き出されるのだが一寸ビクビクする、併し委員は親切であり問題はスラスラして居るから落着いて居ればよい。世間では口述試験は微に入り細を穿つなどいふが根本的理論さへシツカリたき込んで居れば決してまごつくものでない、口述試験は概して六〇點が多いやうで餘程いいので七〇しかくれないらしい同時に減多に六〇以下はつけないらしい九割近く合格さすのを見ても想像出來やうだから口述試験のもんでかかつた方が得策である。

5 所 感

手段は目的ではない。知りつつもパスして見ればアツケない。さう言つてしまへばそれまでだが通るべき關門なら氣持よく男らしく突進しやう、通らないが故に、又通つたが故に人の價値がどうなるといふのではない、併し相對の中に絶對をつかむのが世相であり夢の中に現實を觀するのが人生なら我我は誤りやすい獨斷に服する先に先づ元氣よく此の關門を突破しやう。

通つて見ればアツケない、それはすべての合格者の洩す嘆息である、私はその反面に高文も世間で言つて居る程大したものではない事實の否むべからざることを知る少しがながれば可成の成績で必ず通りうることを斷言する、一時は關西の法律學校として天下に知られて居たといふ本校が近年あまり振はないのは、さうした理由からか、我我は低層の巢窟でふ修飾語で我我の學園を賑はしたくはないのである。職の都合と氣分にして變らなかつたならば今年は行政科の來年は外交科の試験場で諸兄と相目見たいつもりである。

雜 錄

本學年度卒業試驗問題拔萃

本學年度卒業試驗問題の主なるものを左に掲げて學生諸君その他一般人士の參考に供する。

學部卒業試驗問題

手 形 法

(竹田省氏)

一手形行爲獨立の法則とは如何なることをいふや例を擧げて説明すべし。

二甲者その取引先なる乙者を支拂はんとして振出したる爲替手形に、その取引先に非ざる同氏名の乙者が引受署名を爲したり。この引受の效力を問ふ。

海 商 法

(鳥賀陽然良氏)

一海の範圍を説明せよ、海商法の適用せらるべき意味に於て

二貸借人(船舶)の責任を問ふ

親 族、相 續

(原田鹿太郎氏)

一婚姻豫約不履行に基く損害賠償は不法行爲を理由として要求するものなりや

二遺産分割の效力を論ずべし

行 政 法 總 論

(佐治謙讓氏)

一公物の獨立使用を論ず

二營造物の主體決定の方法如何

行 政 法 各 論

(佐治謙讓氏)

一警察の限界を論ず

執 行 手 續

(井上直三郎氏)

一執行の實施及び停止より觀て執行制度の形式主義を説明せよ

# The Kansai University Bulletin

Published Monthly By

## The Kansai University Press

No. 57

March, 1928.

### LEADING FEATURES OF CONTENTS

On State Ceremony .....  
 .. Mr. T. Shinmachi, the Lecturer of the University.  
 Social Policy in the Ideology of Class .....  
 ..... by Prof. G. Iwasaki.  
 University News.  
 Alumni News—Mr. B. Noda, Alumnus.  
 Students' Activities.  
 Miscellanea.  
 Illustrations—Grand Views of Senriyama Compound  
 of the University—Plans of Taisho-Kyu, Shunko-  
 den and Shishin-den, Imperial Palaces at Kyoto  
 —The Dinner Announcing the Installation of  
 the Executive Committee—Mr. R. Nakamura and  
 Mr. T. Hayashi who are going to abroad—Mr.  
 B. Noda, M.P. alumnus—Okayama Kenjin-Kai  
 of Students—Oratorical Contest of the Kansai  
 Inter-Collegiate English League.

### 二 宿題

(條文の使用を妨げず)

#### 判決手續

(井上直三郎氏)

一 現行法に於ける缺席手續の概要を述べ、新訴訟法の改正を説明せよ。

二 現行法及び新法を對比して請求の抛棄及び認諾の性質を明かにせよ。

(條文の使用は差支なし)

#### 破産法

(齋藤常三郎氏)

一 支拂停止の觀念を明にすべし。

二 破産債權、取戻權及び別除權の區別を説明すべし。

#### 經濟學史

(森耕二郎氏)

一 マーカンチリズムの歴史的意義を論ぜよ。

二 フィジオクライトに於ける自然的秩序の觀念を論ぜよ。

(右二題のうち一題選擇の上答解すること)  
(以下次號)

大正十一年六月十五日創刊  
 昭和三年三月十五日印刷  
 昭和三年三月十五日發行

### 不許複製

大阪府此花區上福島北二丁目  
 關西大學學報局  
 編輯兼發行人 森川太郎  
 大阪府西區土佐堀通四丁目五番地  
 印刷者 飯田彌之助  
 大阪府西區土佐堀通四丁目五番地  
 印刷所 三有社  
 大阪府此花區上福島北二丁目  
 發行所 關西大學學報局  
 大阪府此花區上福島  
 福島學舎 關西大學  
 電話土佐堀 二〇四九  
 七三七〇  
 大阪府外千里山  
 千里山學舎 關西大學  
 電話吹田 一三三

# 北陽商業學校生徒募集

## 第一部(晝間部) 五ヶ年制 (文部省認定)

1、募集學年 第一學年定員並上級若干名

○、入學資格 尋常小學卒業(最終學年成績中位以上)

の人は優先入學を許可、但申込順)

## 第二部(夜間部) 本科四ヶ年制 (文部省認定)

1、募集學年 第一學年定員並上級若干名

○、入學資格 高等小學卒業並に同程度以上(最終學年成績中位以上)の人は優先入學を許可

但申込順)

願書二月十五日より受付

(關西大學校友の推薦に係る者は優先入學を許可す、但

申込順)

詳細ハ  
 下記へ紹介

大阪市東淀川區(天六より約五分)  
 甲種北陽商業學校  
 (新京阪電車淡路下車東へ)  
 電話 北七五七五番

# 生徒募集

晝間部夜間部共甲種商業ですから卒業者は中學校卒業

業と同等な資格があります

## 募集人員

- 第一本科(晝間) 第一學年百五十名(尋常小學卒業者)
- 第二學年百五十名(高等一年修了者)
- 第二本科(夜間) 第一學年百五十名(高等小學卒業者)

計 四百五十名

## 文部大臣認可 甲種商業 大阪城東商業學校

### 所在地

大阪市外大軌小阪停留所前(上六ヨリ十分)

### 出願手續

二月廿五日より四月九日まで左記の内便利な所へ御申込下さい規則書は申込次第進呈

### 受付場所

- 大阪市堂島ビルディング二階二〇一號室(電北五八九〇番)
- 大阪城東商業學校事務所
- 大阪市大軌ビルディング内(電話南四一七番)
- 大阪城東商業學校出張所
- 大阪市高麗橋西詰大阪城東土地株式會社内
- 大阪城東商業學校出張所

(電話本局二二八五番)

### 開校に當り本校の方針を述べ諸賢並に父兄諸氏に訴ふ

校長 谷岡 登

眞の教育は社會に立つて一身を確立する基を作るのであります。故に學問知識を研ぐばかりでなく、人格の陶冶、學問の實際化を計らなければなりません。人生の實際に遠ざかる様な教育は眞の教育でないと思ひます。米國メイクル・ジョン博士の主唱によりウィスコンシン大教育は、新教授法を施しつつあることを聞きながら之は、人生の實際と學問とを結びつけて眞の文明を解し社會に立つて働く力を作ることを云ふのであります。最も私はそれに賛成いたします。一人であり、現今我國の國民經濟は非常なる壓迫を受けて居ります。即ち大不景氣に依り諸事業の行詰りとなつて居ります。於茲勃然として昭和維新を唱へらるるに至りました。我教育界の現状を見ますと多年劃一に失し形式に流れて實際に適せず實業教育を等閑に附せられ来たのであります。之れが今日我國國民經濟の發達を來さざる一つの原因であると思ひます。最近に至りまして漸く教育の實際化を稱へらるるに至りました事は國家の爲欣快とする所であり、然し乍ら聲のみにして一としく實際に施されてないのを遺憾と存じまして實際に役立つ人物人材を作るをモットーとして本校は一種獨特なる教育を施さんとするのであります。即ち第一に人格の陶冶に重きを置き我皇國精神の發揚を期します。

第二は實際に役立つ人物養成をモットーとする爲めに全國商業學校に未だ試みざる工業との連絡であります。本校は特に工業大體の理解を得せしめ實際の商業に役立つ人材とするのであります。之れは最近高等商業學校に試みられた制度に期つた最新制度であります。

第三は本校に第一本科第二本科の並設であります。第一本科は前述の方針により有爲有用なる人物の養成を念とするは勿論第二本科は午後五時より授業を開始し、晝間通學の便を得難き篤學有爲の生徒に對し夜間勉學の機會を與へるものであります。之れ最も時代の要求に合致したるものと存じます。文部省の認可を得て全部第一本科と同等の待遇特典を有するものを作りましたのであります。

第四の特色は貧困者學費補助であります。人材啓發は邦家に對する義務であります。此意味に於きまして、進んで卒業者中人物確實にして成績拔群なる者は毎年一名乃至五名を選抜し(上級入學の學費なき者)上級專門學校又は高等學校に入學せしめます之の財源は別に獎學財團なるものを作り支出いたします。尙右財團の發達により更に進んで海外に留學をさせます。

第五は教職員の嚴選であります。校長たる私は誠に淺學非才であります。一つの信念を以て此の獨特の教育を施したいと存じます。

故に其條件として優良教員を招聘せなければなりません。教員の思想教育が直ちに、生徒に反映し生徒の一生の運命を定むることとなり、そこで先輩並に恩師に相談致しまして、舊套に流れず新進英氣激濁たる有爲の教員を招聘し得たる事は誠に私の意を強くする所であり、まず、教員はそれ、専門に秀でたる學士、專門學校出身者のみであります。

元來商業教育は普通教育と申しては好まれません。農業工業商業其他如何なる職業階級を問はず經濟生活を爲す以上、記帳や珠算其他商業學校にて施すべき科目は日本人たる以上是非必要であります之れを等閑に附しません。家を整へ國を整へることも出来ません。今日の國民經濟の行詰りも此の實際教育を重要に考へなかつた罪ではありませぬ。従來は實業學校出身者は高等學校其他一般上級專門學校の入學を許されなかつた爲め向上心に燃ゆる青年は實業學校を除けて中學校に入學した。斯くなり、大正十年實業學校令の改正により中學校と同等以上の待遇を受け、事となり、斯くなり、斯くなり、今後は學校を選ばず實業界に立つことが出来又進んで上級學校に入學出来る爲めに本校を設立いたしました次第で且つ從來より成立の商業學校は中學校の補足の意味か含んで居りますのを遺憾に存じます。敢て諸賢並に父兄諸君に訴へ貴意を得んとする次第であります。

○募集人員 第一學年二百名(尋常小學校卒業)

○出願期間 三月一日ヨリ同二十五日マデ

關西商業學校生徒募集

○入學考査 三月二十六日(人物、體格)

○入學心得 其ノ他ハ本校ニ就キ又ハ郵券五錢送付

大關西市上福島

關西大學福島學舎

電話土佐堀五七〇番

關西第二商業學校生徒募集

○募集人員 第一學年約百八十名(高等小學卒業)

○出願期間 二月二十日ヨリ三月二十四日マデ

○考査期日 三月二十五日(人物、體格)

○特長 甲種認可、修業年限三ケ年、夜間教授

大關西市上福島

關西大學福島學舎

(詳細ハ郵券五錢ヲ添ヘ本校ニ照會)

宮島綱男先生監譯

マーシャル經濟學論集

菊版布裝全一册  
紙數七百餘頁  
定價金五圓五拾錢

本譯書の原書は、三年前物故せる世界經濟學界の泰斗アルフレッド・マーシャルの業績を記念するため、その高弟エー・シー・ピグー教授が編纂發行せるものである。收むるころ遺稿中その創意にかかる學說並びに實際問題に關する論文二十篇を主とし、加ふるにピグー教授の回顧録、ジェー・エム・ケーンズ氏のマーシャル傳その他親しく故人の教へを受け、現に單り英國に於てのみならず全世界の學界に名を競ふ經濟學者數氏の筆に成る恩師を偲ぶ文献數篇を以てしてゐる。當に經濟學の研究に志す學徒に取つて必讀の書たるのみならず、一個の人格として偉人が印せる足跡を迎ふ意味に於て、一般讀書子に取つても亦悉く金玉の文字たるを失はぬであらう。

尙ほマーシャルの主要著作は從來既に大部分邦譯があつて經濟學の研究を裨益しつつあるが、今亦本譯書の出づるやこれらの譯書と相俟つて我國に於けるマーシャル研究を一層完全ならしむることを得るであらう。

發 兌

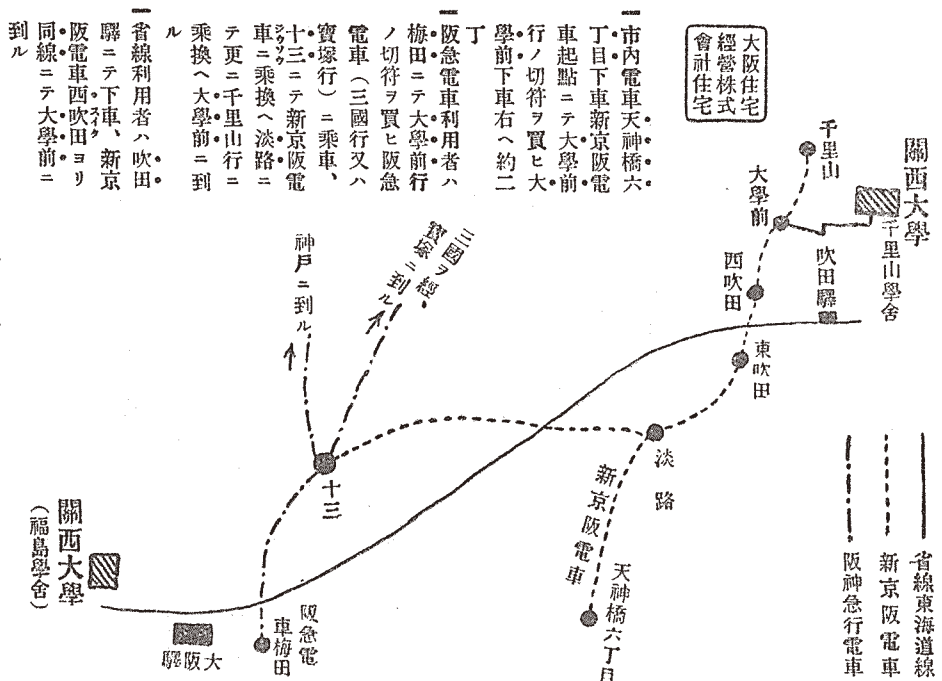
(東京市神田區表保町二丁目) 振替東京二八〇番  
(大阪西市阿波堀通四丁目) 振替大阪四三番

寶 文 館

# 關西大學學生募集

學部		大學豫科		專門部	
募集學年	第一學年	募集學年	第一學年	募集學年	第一學年
出願期間	三月一日ヨリ四月七日マデ	出願期間	二月十五日ヨリ四月五日マデ	出願期間	二月二十一日ヨリ三月三十一日マデ
試驗期日	四月十日ヨリ十二日マデ	試驗期日	四月七日及ビ同八日	試驗期日	四月二日及ビ同四日
部別	法文學部、經濟學部			科別	法律學科、經濟學科、商業學科、文學科

關西大學千里山學舍交通略圖



詳細八郵券五錢添へ志願科學(學部・大學科及ハ專門部)明記ノ上福島學舍務課宛ニ照會